

〈資料〉

## 2018年度「学びのパネル」講演録

石本雄真・片山敬子

### はじめに

学校は、教科指導だけを行う場ではなく、生徒指導も重要な役割となる。生徒指導においては、まず学級経営という形での学校、学級の環境整備が重要である。学級経営が良好であることは、教科指導を行う上でも必須の条件となる。しかしながら、学級経営を行う上での工夫やポイントはあまり大学の授業では扱われない。今年度は、「学びのパネル」(パネル・ディスカッション)として、「学級経営」をテーマに2回実施し、それぞれ2名のパネラーに登壇いただいた。以下では、「学びのパネル」(パネル・ディスカッション)の様子を逐語録として紹介する。

なお、個人情報に関する内容については削除・改変を行っている。また、講演は写真を含めたパワーポイント資料をプロジェクターで投影して行われており、写真やスライドを指示しながらの場面が含まれるが、文中には特にその箇所を明示していない。

### テーマ1 「学級経営」

(片山) それではこれから、学びのパネルの第一回を始めさせていただきます。今日はお二人の先生をお招きしています。皆さんに向かって、右側の先生は八頭町立船岡小学校の平木恭子先生です。

(平木) よろしくお願ひします

(片山) 続きまして隣にいらっしゃるのが、鳥取市立中ノ郷小学校の田井宏幸先生です。

(田井) 田井と言ひます。よろしくお願ひします。

(石本) 教員養成センターの石本です。今二人の先生方を片山先生からご紹介頂きました。今日のテーマは学級経営です。今日は、一年生が多いと思うので、一年生の方はまだそんなに教職系の授業を取ってないと思いますけれど、この先教職系の授業を取っていても、教科の授業は沢山ありますけど、一方で教科以外の学級経営に関わる授業だと、私が担当しているような、生徒指導、教育相談くらいで、そんなに沢山はないわけです。地域学部の人間形成コースの学生だったら他にもいろいろ関連する授業はあると思いますけどね。そんな中で、なかなか大学では学級経営について学ぶ機会もないですし、やっぱり大学で教えられるのは時間も限られているので、たとえばはじめの話だったりとか不登校の話だったり、理論的な話とか現状の話を行うことが多いんですけど、実際に学校現場で子どもに対してどういうふうに対応しているのか、どういうふうに対応しているのか、という話は、なかなか大学では聞く機会が無いと思ひ

ます。そういった話を今日は実際に、現職の先生方から聞いて、具体的なイメージをつけてもらえたらなというふうに思ひます。後の方で質問を受け付ける時間もありますので、その時に質問が出せるように、主体的に聴いておいてくださいね。ただ聞き流すだけでなく、自分だったらどうするのかなど、自分が小学生の時どうやったかなというふうに自分と照らし合わせながら、聴いていただけたらなというふうに思ひます。では、はじめていただきたいなと思ひます。お願ひします。

#### (1) パネリスト講演：

平木恭子 八頭町立船岡小学校

(平木) こんにちは、先ほど紹介に預かりました船岡小学校の、平木と言ひます。よろしくお願ひします。早速ですが皆さんは小学校は何を学ぶ所だと思ひておられますか。なかなかね、こういう時手が挙がらないですよ。良いです良いです。例えば学力をつけるとか、社会性を学ぶとか、コミュニケーション能力をつけるとか、今言われている英語の力をつけるとか、本当に沢山あると思うんですけども、その中でそれらをすべてやっていく、上手くしていく土台が、学級・クラスです。で、学級経営はそれを上手く回していく為のものだと私は思ひています。ですので、もし学級経営がうまくいってなくて、クラスがわざわざしている状態だと学力はつかないし、社会性も身につかないと考へています。

それではここからスライドを交えながらお話しさせていた

できます。まず自己紹介させてください。私はこれまで2年生から6年生、そして特別支援学級の担任をしてきました。そして今年は、4月まで育休を取っていて、育休、わかられますかね、子どもができて、2年くらいすこしお休みをいただいていた。で、4月に徐々に復帰した時に持ったのが、ここに出ている八頭町立船岡小学校2年生です。4月は喧嘩が絶えませんでした。1日に少ない時で3人ぐらい泣いて帰るみたいな事もあったり、喧嘩をして友だち同士でトラブルが起きたりっていうことが、最初は本当に多いクラスでした。そこから私なりの学級経営をずっとしてきて、今は自習を子どもたちだけで、1時間できるようになりました。そして、出張の時、今日みたいにここに来るために出張するってなっても、子どもたちは学級で頑張れる子達に、集団として成長してきていると思っています。

では皆さん、卒業後に、もし学校の先生になりたいとおられて、なられた場合。きっと担任を持たされると思います。その時子どもたちは、最初皆さんの手の中にはいません。みんなそれぞれの思いをもって、それぞれ自由にしています。そこをどうやって、子どもたちを私の方に向かせたり、学習に向かうような気持ちにさせていくのか、というところ。そのようにするためには、どう学級経営をしていくのか、わたしなりの学級経営を、かなりまじめな形で作って来てしまったんですが、紹介させていただきます。

まず、学級経営をする上で、大切にしていることです。当たり前ですが、子どもを1人ひとり大切にするという事です。これは、優しく声をかけるとか、褒めるとか、認めるとか、そういう事も含まれますが、私の場合は、今子どもたちは本当に、テレビで言われるようなネグレクト、DV いろんなことに悩まされ学校に来ています。その子たちの本当の状態、実態を把握し、その個別にあった支援、そして対応をしていくという事です。もちろんそれは、先ほど言った家庭環境もですが、得意とか不得意、学習状況もすべて含まれています。

もう1つは当たり前を当たり前にするという事です。様々な環境の中で生きている子どもたちがいるんですが、それでもこれから社会に出ていかななくてははいけない。その時に当たり前、挨拶をするとか、時間を守るとか、社会人になった時に恥ずかしくないような基盤を子ども達に小学生のうちから付けていきたいと、考えています。

次に紹介するのが、私が4月に学級開き、と言って、4月担任の先生は何々先生です。となった時に、約束を提示するときの3つです。1つ目は嘘をつかない、という事。2つ目は、自分も友達も大切に、という事。そして、3つ目はみんなで決めた、学級で決めたルールは、絶対に守るという事です。で、ここで多分1つ目と3つ目は分かれると思うんですが、自分も友達も大切に、ここの自分もっていうところは、本当に自分の自傷行為、自分を傷つけてしまう行為も含まれますし、皆さんも今はラインとかTikTokとか、色々な事をしとられると思うんですが、小学校では、友だち依存に走りやすい子どもがすごく多いです。というのが、自分の考えを押し殺してでも、友だちに合わせようとしたり

とか、友だちと一緒に、と言いたくなる。そういう子どもがすごく多いです。その時に、やっぱり自分の思いを持つ、という事を大切にしたいと思っています。また、やっぱり、友だちの発言を聞く、話を聞く、それは相手を認める最大のことだと思います。今皆さんがしておられる、私の話を聞く、これは私にとっては本当に嬉しいことで、自己肯定感の上がる行為。その行為をクラスの中で、当たり前にしていくという事です。

次に私自身が大切にしていることです。1つ目は当たり前ですが、いろんな場面で認めていくという事です。ただ、認めて褒めるのではなくて、先ほど言ったように子ども1人ひとりの状態に合わせて対応するという事です。例えば、文章を書くのが苦手な、2行しか書けなかった子が5行書いたら、それは大きな成長です。ただ、5行書ける子が5行書いたのを褒めるのは、認めるではありません。ちょっとしかできなかった事ができるようになった、その成長を認めていくという事です。次に子どもをしっかり見る。これは簡単に言えば体育の時に、服を脱ぎます。その時に体に傷がないか、それは「目で見る」です。あとは子どもの様子でおかしいところが無いか、それは「心の様子を見る」です。次に最近頑張っているのが、普通の子ほど大事にするということです。クラスの中で目立たない子、目立つ子は自分からけんかもするし、自分から先生聞いてと来るんですけど、そこでクラスでぼーっとしている子、その子を褒めて、認めてやるという事です。当たり前を当たり前にしている事を、当たり前で私にとらない。当たり前でできていることが凄く、っていうふうに認めていくっていうことも大事な事だなと最近頑張っています。最後はもちろん子どもに言う以上、時間と締め切りは守ります。

次です。私が目指す学級、誰もが安心していられる学級を目指して、という所です。その為には、まず教師から児童への働きかけ。そして児童同士の働きかけ。そして保護者からの児童への働きかけ。それらによって自己肯定感を高めて、友だちを認める心を育てていきます。そして、自分の良さや友だちの良さを認め合える子を目指しています。

教師から児童におこなう働きかけについてです。ひとつ目のステキカードですが、これは個人に行くものです。この教室の中で見つけた、子どもの素敵な姿をほんとに小さなカードに今日こんな事してくれてありがとねとか、こんな姿がかっこよかったよとか、ほんとに一言です。一言書いて、内緒だ、って言って帰りにこっそり渡します。たったこれだけの事です。そして、そこで絶対に大事なのが、秘密だよという事です。大した秘密ではないんですが、子どもは秘密、先生との秘密が大好きなので、とってもこのカード喜んで持って帰ります。

次にステキコーナーです。これは、学級の全体。保護者も含めて全体に伝えることです。学級通信で児童の素敵な姿を紹介するコーナーになります。これは配った日に子どもにも読みます。クラス全体に読むことで、クラスみんなで共有化を図って、認めて広がっていくようにしています。どんな内容を書いているのかっていう事で、たぶんイメージが

わかないと思ったので、用意してきました。ひとつ紹介させていただきます。ステキコーナー左側の方ですね。第6回スポチャレの時間に、っていうところですよ。5校時終わってから帰るまでの時間を使って、行われているスポーツチャレンジ。スポチャレの時間の事です。自分よりも少し早く準備ができたので、早めに行っておこうと、体育館に向かった2年生のみんな。私はストップウォッチをとり職員室によってから体育館へ、ストップウォッチ片手に体育館につくと、カラーコーンを並べ色ごとに座っている2年生の姿が、これまでのスポチャレの時間にしてきたことから、今日使うものを考え、準備し、そして、いつでもスタートできるように並んでいるではありませんか。その姿を見て2年生の集団としての成長に感激しました。自分たちで考えて、みんなで声をかけあって行動したこと、これは大きな成長です。そんなみんなに、凄いな、先生は本当にびっくりしたよ、成長したね、と声をかけると、うれしそうにみんなにっこり。ところが温まりました。というような内容で、学級通信で1つのコーナーに載せました。そして、こういうふういろんな手だてをうつつ事で、子どもたちは自分のもらったミニカード、ステキカードとか、ステキコーナーによって、こんどは友だちの良いところを見つける視点、を持っていくと思っています。

次に児童同士です。帰りの会っていうのがあります。みなさんの小学校の頃、きつとありましたよね。あったと思います。ありがとうございます。ちょっと頷いてくれた人がいました。その時に友だちの良いところを紹介して、お礼を言ったりとか、素敵だったよ、っていうふうな事を言う時間を設けています。また、ステキな実のなる木っていう事で、こんなふうの木にして、リンゴの付箋を置いておいて友だちの素敵な姿を、どんどん書けるようにして書いて貼っていく。たまってきたら、また配る。みたいな事をしています。

次に保護者が児童を認める。という所ですが。保護者は家での成長は見えますが、学校のことはわかりません。では私たちが学校の様子を、伝えていかなくてはいけない。その時に教師から保護者へどの様に関わっていくのか、という事をお伝えしたいと思います。まず、1つ目はステキカード。先ほど言ったミニカードです。2つ目はステキコーナー、学級通信です。最後、3つ目ですが、私がよく最近しているのが、電話連絡です。みなさん学校から電話がかかってきたら、どんなことを想像されますか？お母さんに学校から電話がかかってきたら一つになったら、なんか、どうですかね？良い事だと思う人。悪い事をしちゃったかなって思う人。ありがとうございます。そうですね。4月に出会った保護者の皆さんも、友だちとけんかしましたか？とか誰かにケガさせちゃいました？とか学習の中でなにか困ってますか？っていう事を、必ず最初に電話すると言われます。でも私は電話連絡は、もちろんこの時もありますが、頑張ったことや、その子自身が成長したって私を感じたこと、努力している姿とか、心がほんわかするようなエピソードを伝えるようにしています。そうすると保護者の方は、先生なんか、見てくれているんだな、っていうふうな気持ちをもってくださいま

す。どんなことを言うかという、例えば頑張った姿だと、全校集会ってイメージ湧きますかね。学校の1年生から6年生まで集まって、校長先生の話を聞きましょう。みたいな時に、子どもが頑張って手を挙げて発表しました。2年生なのに、6年生が手を挙げてなくて、2年生ひとり手を挙げた、それはすごい事です。それをお家の人に伝えたりしました。他にも、心がほんわかするエピソードで、給食時間になぞなぞ係っていう係が、「相手がいると話せないのはなんだ、話せない事なーんだ」っていうなぞなぞを出したんです。答えは独り言なんですけど、クラスの中で友だちを殴ったり、けったり、そしてお母さんのいう事を全く聞かなかった男の子が、「ハイハイハイ」って言って、「お母さんにありがとうって言う」って言ったんです。その時に、心ほんわかさせませんか？普段はお母さんにあつちいけえやーとか、ついてくんなとか、言ってるくせに、相手が目の前に行きたくないことに、「お母さんにありがとうという事」って言ったんです。で、その次に、クラスの中ですぐ衝動的に走り回ったりとか、動き回ってしまう子、「女の人にかわいいって言う」って言いました。それも心がほんわかしました。さらにクラス1おしゃべりな男の子が、ませているのか、「好きな人に告白すること」とか、言ってきました。これはまた面白いです。ほんとにこういうちょっとした事なんです。本当に日常の中で起こった、なんか面白いって思ったことをお家の人に伝える、ただそれだけです。それだけで、保護者との関係づくりができてきます。で、保護者に思ってもらうことは、「担任と保護者は、敵ではありません、子どもたちを見守る一緒にチームなんです」っていう事を常に伝えていきます。チームになるとちょっとした事でも相談しやすいです。ただ対戦相手だと相談はできません。なので「チームになってなんでも言ってください。相談してくださいね。」って言っています。塵も積もれば山となるという言葉があるのですが、ちょっとしたイライラが保護者の人を豹変させることがあります。積もって積もって積もって、爆発する前に、1つ1つ丁寧に対応していく、これが1つのリスク回避になると思っています。

次です。でもこんな風にしても、やっぱり子ども同士は喧嘩しますし、トラブルは起きます。もめ事もあります。じゃあ児童への指導で大切にしている事、もちろんこれはすごく難しいことですが、学級内におい絶対にダメな事はダメだと私は譲りません。それがちょっとしたこれぐらい良いかなと思う事でも、絶対に譲りません。特例を作ると子どもたちは、ああじゃあこれも特例になるって勝手に特例を作っていきます。なので先生になられる方々は、譲らないポイントは持たれた方がいいと思います。

次に友だち同士でトラブルがあった時です。よく勉強されていると思うので、わかっておられると思いますが、事実を確認して、児童の思いを聞いて、寄り添っていく、そしてその中でなんでそんな事をしたのかな、した事ばかりを怒るのではなくて、何でそんな事をしちゃったのかな。その部分に子どもとのつながりが、また生まれてくると思います。その後、どうしたらよかったか、これからどうするか

という事を、話をしていきます。で最後、基本的に学級があったできごととは、内容にもよりますが、クラスみんなに伝えるようにしています。それはみんなで考えて、みんなでやっというこうって言う、学級経営を私が目指しているからです。

次です。もう一つ問題行動があった時、っていう事で、先ほど話した、「お母さんにありがとうと言う」と言った男の子は、どうしてもすぐ、勝負ごとになると、カーっとなって人を攻撃したりとか、パンチしたりキックしたり、が出ていました。なのでイライラした時に、どうしたら良いのか、それは皆さんもそうですよね、ストレスがたまった時に何をしたらいいの、っていう事を常に色々思っておられると思います。それぞれ持っているもの、でも学校内じゃないとできないこと。で、彼とは何かイライラしたことがあったら、ある所、場所を決めて狭いところなんですけど、そこに逃げ込むっていうふうにしています。そしたら、7月くらいからは、もう友だちを攻撃することは無くなりました。すぐに走って逃げますから。一緒にどういう風に対処していくかという事を考えてあげる。それも子どもとのつながりを作る上で大事だと思います。で一番大事と言ってもいいのが、トラブルとか、カーっとなって怒ったり泣いたりしている子どもに話を聞いてはいけません。大丈夫だよと声をかけるだけで、話は聞かない方がいいと思います。どうしてもその時を思い出して、ヒートアップしてしまう。それは保護者もそうです。落ち着かされてから、落ち着いてから話を聞いていく。泣いたり怒ったりしている状態では、聞けないという所です。で、もちろんですが、児童の話聞きながら、今はいろんなところで裁判が起こったりとか、いろんなふうになっていますので、記録を取るという事です。私は基本的には、2年生なのでひらがなまじりで取っています。というのもその、事件に発展したとき、っていう事だけではなくて、その子が4月こういうことがあった時はどうだったかな、って子どもと一緒に確認して、その時よりも、もしかしたら、殴る度合いが、3発殴ったのが、1発になっとなったとか、減ってるかもしれない。そしたらそれは認めてやる場所にもなる、という事です。なので子どもでも読める字で、書いています。次にももちろんですが、その日中に保護者に連絡をします。そして学校の職員に共通理解を図っていきます。そうするとやっぱり、学校だけではなくて、家庭環境の中に問題がある。朝ご飯を食べて来ていないとか、昨日の夜お父さんが暴れたとか、そういう事が隠れています。そういう時は、必要に応じてスクールソーシャルワーカーとか児童相談所、スクールカウンセラーに繋げるようにしています。こうやってきめ細かに1つ1つしていくことが、一番のリスク回避、保護者とのトラブルを減らすことになっていくと思います。このように今まで学級経営の事を話してきましたが、やっぱり、学級経営の中心は、授業だと思っています。子どもたちがいる学校の時間の中で、一番多いのが授業時間です。たぶんこれまでの、見させていただいたのでは、パネルの学級経営以外に、教科教育とか色々あったと思うんですが、学級経営も授業の中にあります。授業の中で沢山褒める。それは、その成長、先ほど言ったように、書けるよう

になったとか、発表がちょっと増えたとか、そういう事、または皆さんが今メモしながら書いてくださっている様な、そういう学ぶ姿勢。学ぼうという意欲を褒めるという事です。認めるという事です。それをまた学級全体にも、広めていきます。そして皆で称賛し合う、この子成長したね、そうだね、そうだねっていう風に、成長を認め合うという事です。次にやっぱり授業なので、やってみたいと思うような、工夫が必要です。国語の「ビーバーの大工事」って皆さんありました？子どもの頃ありました？ああ、いいですね。今、私、その「ビーバーの大工事」で、動物クイズを作って全校放送で流そう、っていう事を最初子どもたちに言いました。放送って聞いて、やりたいやりたいみたい。ほんとに子どもは素直で単純です。なんかかっこいい事、なんか6年生とか5年生がしとる様な事を言うと、やりたいやりたいってなるんです。逆に5、6年生は社会人がやっているようなことを言うと、大学生とかね。すごいやりたいやりたいってなります。そういう仕掛けを作っていきます。また、算数のかけ算をやった後は、かけ算取りカルタでちょっと遊んで、学んだことってゲームにもなるんだよっていう風なことを伝えたりしています。次に先ほどと繋がりますが、やっぱり、わかったとか、できたとか、こんなできなかった事ができるようになったとか、っていう所を、しっかり働きかけて、喜びを感じられるようにしています。また、個々を大切にするという事で、個を大切に支援、例えば授業の流れが分からない、今日何するか分からない、そうなる皆さんもなんかドキドキしませんか？発表当てられるかもしれん、どこでどうなるんだろう。そんな事がないように、1番に今日は何を、2番に何を、3番に何を、4番に何を、する事を細かく短くして、提示するようにしています。そういう支援はクラス全体の支援にもなるという事を、思っておいていただけたらと思います。で、やっぱり学習内容だけ突き詰めていってもダメです。褒めていっぱい伸ばして行くことを、大事にして下さい。授業を通して子どもたちとの関係を作っていくという事です。いくつか紹介してきましたけども、すべての学級にこれが対応するかどうかはわかりません。今私はこの話をしていますが、もし10年後に呼んでいただけたとして、皆さんはいないとしても、10年後呼ばれたとしたら、同じことをしゃべるかといったら、ちょっとわからないです。私もいろんな人の学級経営を参考にさせていただきながら、あ、これいいな、これ盗もうっていう風に、どんどん自分自身も進化させています。なので、やっぱり学級経営は、これがオーソドックス、これが100%なんてことはなくて、この子たちに合ったものを、少しずついろんな材料を集めて、これどうかな、これどうかなって試すことが大切だと思います。ただ、変わらないものは、1つ、自分のクラスをオープンにという事です。自分のクラスをオープンにというのは、職員室でしゃべるという事です。私はここに呼ばれたときに、職員室の先生方に、「あんたおしゃべりだけえだわ」って言われました。きっと、しゃべるという事はすぐでも大事で、クラスであった出来事、もちろん面白かったこともですけど、トラブルとか、最近気になる子

の話をして。すると職員室の先生方が、学級全体の支援に来てくださったり、いろんな目で見てくださったり、兄弟関係で新たな情報を得たりする事ができます。一番は職員室に頼りになる先輩がたくさんいるという事です。その先輩たちを頼って、1人で抱え込まずに相談する。先輩先生の姿を見て、聞いて、学ぶという事を、私は今もしています。だんだん上がね、少なくなってくるんですけど、それでもいろんな人の学級経営を見させていただいて、取り入れる所は取り入れていっています。大学の先生からメールを頂いたときに、大学生の今、しておいて欲しい事はなんですかって、ちょっと難しいテーマがあったんですが、今私が大学に戻れるなら、あの子のために特別支援の事をしたいな、とか、あ、あの国語の授業こう面白くするには、どんな事したらいいかなって、いっぱい必要感や目的意識があります。でもたぶん皆さんは、まだ学校に出られないので、こんな目的でどうやったらいいか、っていうところはなかなか見つからないと思います。じゃあ何がいいかなって思った時に、私いま悩みがあって、特技が無いんです。大学生のうちにひとつ何か面白い特技を身につけていたら良かったな、って今すごく思います。特技何個あってもいいと思います。簡単にマジックでも楽器でも、“生き物に対する知識は私は負けない”でも、何でもいいです。落語でもいいと思います。なんでもいいですけど、それが皆さんの個性につながっていきます。そしてもうひとつは、いろんな経験を積むという事です。たとえばサークル活動とか、飲食店のバイトとか、イベントスタッフ、もちろん大人になっての喧嘩なんてのもいいですね。なんかそんなの、子どもたちはとにかく先生のお話が大好きで、先生どんなバイトしてたの？とか、先生喧嘩したことあるの？とか、今日大学生に話をするって言ったら、先生話せることあるだけ？とか、子どもたちは何でも先生のことは知りたいです。なので、すべて、今やとられることすべてが、全部教員としての、個性だったり、魅力につながっています。それをただ、やっているのではなくて、これこんな風に話したらとか、面白いエピソードをためとくと、すごくいいです。最近、子どもに受けたお話なんですけど、ちょっと汚い話で気分が悪くなったら本当に申し訳ないんですけど、2年生にいちばん受けて、毎日のように「先生あの話して」って言われるネタがあるんですけど、いいですか？ちょっと、汚いけど失礼します。私今2歳の子どもがいます。で最近、まだオムツです。ある時パンツを覗くようになりました。うんちが気になるみたいでパンツを覗くんです。で、ある時、私ウトウトウト寝ていたんですね。そしたらペチペチペチペチって叩かれたんです。何っと思っ、パッとみたら、部屋中がティッシュの丸いのが、ワッってなっているんですけどね。なにこれ？と思ってティッシュを見たら、たぶん手を入れて付いたから手を拭いて、付いたから拭いてを繰り返してるんですね。あぁやってしまった、と思って、片付けをしていました、片付け終わって、オムツ変えて、トイレに返しに行っ、さぁ手を洗おうか、と思って鏡がありますよね、お手洗って、鏡を見たら、ここに茶色いものが一杯付いてるんですね。さっきペチペチ

ペチされた時に、一杯付いたんですって言う様な話なんですけど、すいません笑ってくださってありがとうございます。すごい汚い話で申し訳ないんですが、もうそんな風なエピソード、本当に私のただの失敗談なんですけど、子どもは毎日、ゆいちゃんって言うんですけど、先生ゆいちゃんの話してよ、してよって言ってきます。そんな風に今、先生方がしとられる事も、皆さんがしとられることも、これから、先生になってされることも、全部が全て子どもたちにとって魅力になります。それを覚えておいていただけたらなと、思います。

最後に、私が皆さんと同じ大学生、10年くらい前かな大学生だった時に、いろんな講義を受けて、中世の農民学とかちょっとよくわからない勉強もしたんですけど、その中で一番心に残ってること、こんな事しか心に残らなかったんかって思わないでくださいね、残っていること、そして今、私を支えている座右の銘を、紹介したいと思います。これです。「大変、大変。」今回のお電話を受けた時、うぁ大変だ、と思いました。大変な役を引き受けてしまったと、でもその大学の先生は、大変という言葉はね、大きく変わると書くんだよ、大変な時こそ、大きく変わるチャンスなんだよって言われたこと、それを常に私はなにか嫌な大変な事がきたら、よし大きく変わるんだ私は、今日変われたかどうかはわからないんですけど、大きく変わるんだという気持ちで向かう、ただそれだけなんですけど、そんな風に思っ、今回この話を受けさせていただいています。今日こうやってお話をさせていただいたり、この資料を作る中で、自分の学級経営をこんなで見直す機会ってほとんどなくて、本当に日々追われていて、そんな中で、すごくいい機会だったな、今回は自分にとって、すごくいい事だったなっていうふうに思う事ができました。そして、みなさん凄く真面目でね、すごく聞いてくださってありがとうございます。私の自己肯定感もたくさん上がりました。ご清聴ありがとうございます。少しでも皆さんの何かの参考になったり、お役に立てたら光栄です。また、先生になられて現場で会ったら、嬉しいです、失礼します。ありがとうございます。

(石本) ありがとうございます。なんか駆け足で話して頂いてすみません。いま色々とお話をして頂きましたけども、ステキカードとかステキコーナーとかね、いろんな具体的なアイデアも出てきました。こういう話って大学の授業で聞くことは、ほぼ無いと思うんですよね。こういうのは本当に、どれが正しいとはなかなか言えないものがあって、本当に先生方が、これまでの教職経験の中で編み出してきた色んな技だったり、アイデアだったり、他の先生から盗んできた技だったりとかする事で、なかなか大学としては教えるににくいんですよね。どれが正しいともなかなか言えなくて、学校のクラスにも実情によっても違ったりするのでね。でもそういう技をいっぱい知っておくのはすごく大事な事です。いま1年生が多い中で、4年生も一定数いると思うんですけど、4年生もし来年教職に就くって人は、小学校だけでなく中学校に行く人もいますけど、こういう中

でね、もちろんアレンジして自分のクラスの実態に合わせて使っていくんですけど、そういう風にして考えて、盗んで使っていくのは、良いんじゃないかなっていうふうに思いますね。あと、子どもに対する対応とこも、色々話していただきましたけど、イライラした時に一緒に対処法を考えるってなんてね、すごく大事な事ですよ。ともすれば子どもが怒るときに、「もうそんな事で怒らないの。」っていうように怒ること自体をセーブさせようとするってことも、ありがちなんですけど、それはできないですし、そんな事言っても意味がない時に、やっぱりどうしていいか、一緒に考えていくというのはね、大事な姿勢ですよ。落ち着いてから話を聞くと話もありましたけど、ほんとにそれは大事なことで、人つてのはね、怒ってるときはね、まあ脳でいえば偏桃体が動いているほうですよ。そういう時は理性のほうは働きません。だから、人の話を聞けていわれても聞けません。それはもう不可能なんですよ。だからやっぱり落ち着いてから、ちゃんと振り返るってのはすごく大事なことであって、そういう事も事な点だというふうに思いますよ。はい、じゃあ続いて、お話を聞いていきたいと思えますね。

次は中ノ郷小学校の田井先生の方からお話を聞きたいと思えます。お願いします。

## (2) パネリスト講演：

田井宏幸 鳥取市立中ノ郷小学校

(田井) 失礼します。中ノ郷小学校の田井と申します。平木先生の方がですね、大変、立派な、素晴らしいすごく、わかりやすい学級経営の事のお話をして下さいました。それに対して私の方はね、ちょっとね、ふざけた所があるかなと思いますので、流すような感じで聞いていただけたらいいかなと思います。では、よろしくをお願いします。

いきなりこんな写真を出しますが、これ何かわかりますか？どうぞ、あぁないですか、タコじゃないですよ、イカですよ、これイカを釣っていました。夜です。これわかりますか？そうなんです、これね、タイと言います。しかもまあ黒いタイなんで、チヌとか言ったりするんです。ちょっと自分の名前にかけてたわけではないんですが、こんな事をしたりしています。で、これがわかりますかね。名字でもありますが、ズキですね。はい、鳥取の千代川で釣れる魚です。70センチオーバーの魚です。こんな風に釣ったりした魚をですね、子どもがよく釣り具屋とかにまわしてくれ、という事でHPにあげたりとか、まあそういう様な事をしています。ちょっと皆さんに申し訳ないですが、なんでこんな写真出したと思います？自慢だろ、みたいな感じじゃないんですけれども、要はですね、余暇を楽しんで欲しいという事です。自分自身、皆さんもたぶん、趣味をたくさんお持ちだと思うんですけど、その趣味をする時間はやっぱりプライベートになるかと思えます。当然、仕事も大事なんですけれども、その仕事とプライベートを使い分けて、しっかりと楽しんでもらいたいという事を、まず一番私が皆さんに伝

えたい事です。当然仕事はですね、日々邁進するのが当たり前でして、自分自身としては、上の方を目指してって言う様な事もあるかと思うんですけど、やはり自分自身の心が充実しない限りは、仕事もやっぱりどっかで行き詰った時に、気分的に落ち着かないという事も出てきますので、そういう意味では余暇の過ごし方というのを、大事にしてもらえたらなど、お話をしました。

ここから自己紹介をさせていただきます。ちょっとですね私は、そのまま教員になったという形ではなくてですね。大学卒業後はこの様な経歴で、幼稚園で1年、ホテルニューオオタニ鳥取の方で7年、その後教員を目指して講師を5年、で現在採用されてから9年目という形になっています。なんでこんな風な経歴になったんだろうなって思い起こすとですね、これが鳥大の附属幼稚園で、働いている1年目の時です。4年生の時まあ自分自身の中で、教員になろうという考えは全く持っていませんでした。まあ理由はいろいろあります。父親が、母親もですけど教員だったというのもあるって、あまりにも、教員の常識は社会の非常識という事は、よく言われましたけど、自分の両親に対する、そういう反発ではないですが、そういう思いもありましたし、いろんな意味で、社会を知らないままストレートに教員になるっていう事に対して、自分の中でどうなんだろうと、そういう思いをすごく持っていました。そういう意味で、その年大学4年生の時には、教員採用試験も受けませんでした。で民間もいろいろ考えたり、試行錯誤した挙句、最終的にはどこも入社試験は受けませんでした。バイトでもしながら就職浪人でもしようかなって言う様な感じで、軽く考えていたんですけども、その当時やはり教育学部だったので、ちょうど私は体育の小学校の過程で、体育の方の教授の油野利博先生という、昔おられた方なんですけれども、その方に声をかけられて、その方が以前幼稚園の園長をしておられたという事もあり、この附属幼稚園の方で1年間働くことになりました。当時は当然本採用ではありません。非常勤講師と言って、週37時間と45分くらいだと思うんですけど、それより10数時間少ない時間で、給料の方もざっというと12万円ぐらい。生活していくにはかなりきびしい、まあ独り身だったのでその辺はなんとでもなるっていう所もあるんですが、そこで、そんな状況で1年間働いていました。ただ、自分自身の中で、ちょっとここです、思いが変わって来てですね。あ、教員って結構面白いなと。やはり日々子どもたちを見ていくことで、子どもたちの成長とともに、自分が歩んでいくこともできるし、確かに、幼稚園児、大きく成長していく人生の中の、点でしかないんですけども、その点に自分が関われるっていうのはすごく幸せな事なんだなっていう風なことを感じました。と同時に、やはり難しさというものも考えました。この子の人生に、こう言った事に、教諭がこういう事を言っていますと、どうなるんだろうとか、それを聞いて保護者が、どういう対応を返してこられるんだろう。みたいなちょっとした不安感というの、当然持っていました。そういう思いを色々考えた中で、じゃあこの仕事を続けるっていう事はできたわけですけども、やはり自分

の中では、大学までに考えていた、社会の荒波に揉まれたい、そういう思いがあったので、民間企業の方の試験を受けて、鳥取の地元のホテルの方で働くことになりました、これが社員証ですね。当時ホテルで働いていうのはですね、昔ホテルというドラマがありまして、そのドラマの影響もあってですね、やはり華やかな世界、憧れの場所で働けると、そういう風な思いがありました。この写真で行くとですね、右側のちょっと背の低い、遠くで見難いんですけども、写真を見たら昔はまだこんな風に痩せていたんですけども、凄く今は太ってしまいましたが、こういう所で仕事をしていました。でそういった華やかな世界だなとばかり考えてはいたんですが、実際にはやはり違っています。現実はそのなりに甘くはなかったです。言い方は悪いですけど、水商売であります。結局交際費の出た金額のあまり分、余剰分といいますか、使える金額があればこちらの方に回すという形になりますので、当然、バブルが弾けて以降は、どんどん売り上げも減っていき、話で行きますとね、入った当初はお正月に働けば、正月元日働いて3万円、2日に働いて3万円、3日も出て3万円、というふうに9万円ぐらいのお金が貰えていたものが、どんどん額が減っていき、最終的には3日間出ても数千円しかいただけないという様な、そういうお年玉方式もあつたりしました。それくらいどんどん経営も厳しくなっていくかな、という世界です。でそういった中で自分自身も7年間、フロントでの業務が中心になって働いていました。それ以外に、県外に営業に行ったりであるとか、そういった事もやっていたんですけども、やはりフロントにいるという事は、皆さんもお分かりになるとと思いますが、ホテルには宿泊もあれば、レストランもあります、宴会もあれば、結婚式等の婚礼もあります。そういった所で、いろいろサービスを受けたお客さんがですね、納得できない事であったり、どうなってるんだ、というような事が、やはりどうしても出てしまいます。100%こちらはお客様の顧客満足度を上げようと頑張るんですけども、やはりそれぞれの部署で、足らなかった部分、そう言ったものがあると、一番苦情が来やすいのがこのフロントです。で自分としては納得できなくても、もうやはり平謝りをするしかないという所で、常に申し訳ありませんという事を、言い続けてきた7年間だったんだなという事を、今になると覚えています。そういう理不尽さと闘いながら、こちらのホテルの方で働いていました。そう考えるとやはり、ストレスが相当たまっていたんだな、という事も思います。働いていけば当然役職も、どんどん上がって行く訳なんですけれども、主任から係長、係長から課長という風に、どんどん上がって行くんですが、上がれば上がるほど、実際に自分がここで働く会社に対しての、経営方針や方に、納得できない部分がありまして、自分の方からいろいろ稟議を挙げて、会社を変えるためこうして行きましようとか、例えばちょうドインターネットが入ってきたような頃でして、そのシステムを変えようという事を言うんですけども、いくら言ってもそのシステム自体を変えようとしないうような会社の方針もあって、このまま働いていても厳しいなという部分もあって、自分

自身で転職を決意したという事です。この時にもうすでに30歳ですね。もうこのホテル時代の時にはもう、結婚もして子ども1人産まれていました。そういった中での転職だったので、周りの人たちからは、なんで転職するの、そのまま居ればいいじゃん、役職もあるのというふうな感じで話をされるんですけども、自分の中では、このまま自分の今後の人生設計を考えた上で、やはりあまり言いにくいんですけども、給料は高い方ではありません。で、ボーナスも景気に左右されますから、減っていきます。ひどい時には平社員と同じで、部長だろうが課長だろうが支配人だろうが一律でいくらって言う様な事もありました。

そういうのをほんとにこれから先ずと自分が、抱えた上で生きていけるのかなっていうのを、実際に自分の家庭を守って行けるのかなっていうことを考えた時に、やはりちょっと自分の中では難しいかなっていう思いがありました。それに対して、やはり自分の家族、奥さんの方は教員を目指す事に対しては、やはり反対ではなくって、大賛成だったっていうのもあります。ホテルで働いているとですね、どうしてもまあ経済的に苦しかった事もあります。それ以外にも休みがですね、土曜日曜日休みなんていうのはほとんどありませんし、それ以上に、お盆とかお正月とか、そう言った時に休みがとれません。稼ぎ時であるというのもありますので、サービス業のそういう辛さの部分もあって、自分の子どもと関わる時間がどんどん減っていつていう事もあるので、自分としてはどうなのかなっていう所もありました。そういった面の生活環境であったり、家庭環境、そういったものを総合的に判断して、まあ今よりは向上するであろうな、とつれあいとしても思ったと思います。妻が言うには、なによりたぶん、夜わたしがですね、寝言で「申し訳ありません。」って言うことを繰り返してたという事を言っていました。そういう姿が無くなるなっていうのが、何より安心できるっていうことがあったんだと思います。教員になった今、今度は子どもたちの出席をとっているそうです。寝言で。そのような感じで転職を決意しました。

じゃあ転職したからと言ってすぐに、教諭として採用されるわけではないのも御存知だと思いますが、教員採用試験をまた受けないといけないということで、採用人数もすぐ10人とか低い時で、結局5年間、試験の方を受けました。やっと人数が増えて35人、県内で35人になった時に採用されたということです。その間までの5年間は常勤講師であったり、非常勤講師として、中心は県の東部の小学校ですね。市内であったり八頭の方であったりとか、そういった所で勤務をしてきました。担任の方ですね、はじめの2年間は特別支援学級の、情緒の支援学級の方を担当しています。3年目にですね、やっと初めての通常学級の担任ということになりました。初めての担任で、当然意欲もすぐありますし、頑張ろうという気持ちでいるんですけども。3年生の子たち、人数が、クラスの在籍人数が35名プラス、交流学級と言って支援学級の子たちが3人いて、38名の子たちを相手にするという大所帯を任されてしまったという所で

す。やはりですね、右も左も分からないではないですけど、自分自身も大学の頃10数年前というのもあって、もう思い出せない所もあってですね、子ども達も感情を自分で抑えるのがどうしても苦手で、どうしてもねすぐに暴力に走ってしまう子もいたり、やはり保護者の中にも、目には目を歯には歯をではないですけど、やられたらやり返せと、それがうちのやり方だတဲ့というような家庭もあって、その教を常に忠実に守って、トラブルが絶えない子であったりとか。中にはやはり家庭環境がどうしても厳しくて、食事が満足にできなかったと、近くにあるスーパーマーケットで何度も万引きを繰り返して、最終的には児童相談所に送られてしまった、そう言った様な子も実際にいました。

本当に、今振り返ってもかなり大変だったなというふうな思いがあります。ただ、それでもやはり、一年間なんとか無事に終えたのは、同じ学年を組んだ学年主任さんであるとか、後は自分と同じその学校の職場の先生方、同僚の先輩方、そういった方にはやはり自分の方から助けを求めて、そういうことができたから、なんとか1年もっていったんじゃないのかな、というふうに思っています。

ここでやはり感じたのはですね、困った時には、やはり報告、連絡、相談、よく聞かれると思います。「ほうれんそう」ですね。やはりこの「ほうれんそう」を欠かさずに行うことが大切なんじゃないかなということをしごく実感しました。これはまあ民間、どこの会社でもそうだと思いますが、常に大事にしておかなければならない事かなと思います。

でやっと採用された時が既に35歳です。子どもも2人目ができていて、2人目の子どもも幼稚園に通っている頃ということです。そして小学校教諭として採用されました。最初はですね、岩美の方の小学校で3年間働いて、そして今現在の中ノ郷小学校で6年目というふうになります。この写真は、お分かりになりますかね。小学校で毎年ある学習発表会。5年生の担任をしている時に、英語劇、浦島太郎ズワールド、って言う事で、まあ浦島太郎ですね。その中にですね、学年主任さんから、無理やりタイで出なさいと。役どころとしては見て分かるように魚でして、タイのレッドスナッパーという役どころで出させられました。こんな感じですね、同僚の先生方にも結構からかわれたりしながら、からかわれると言いますか、結構まあ声をかけてもらったり、可愛がってもらっています。私自身では分からないんですけど、先生方にまあよく言われるのは、表情が豊かだと、そしていつも子どもたちを、笑わせようとしている。そういうことを努力しているなど、子どもとの距離もやはり近いんだろうなという事を、しごく言われます。こんな感じで私自身今、日々楽しく学校生活を送っているという様なかたちです。で、オンの時とオフの時も大事にしながらという事を一番に頑張っています。で、今回呼ばれた趣旨の学級経営の方ですけれども、平木先生の様には話できませんが、私としてはこの具体例ではなくても、心得といえますか、考えてもらいたいなど、心がけているだけで変わってくる事を5つ程、挙げさせてもらいました。すいません、資料用意してないので、これはって思うものがある時だけ、メモとって

ただけたらなと思います。

まず1つめは学級は生き物であるということ。で2つ目、終わりのイメージを明確にもって下さいということです。3つ目は先ほども平木先生のほうからもありました、児童理解はすごく大事だなということです。あと4つ目、距離感。子どもとの距離感ですね。最後は三つの門構え。漢字でちょっと表したら、こういうことかなという事です。心がけている事で、いろいろな物の見方が変わってきます。その見方が変わることによって、自分自身の態度も変わって行きます。その態度が変わって行けば、自分の行動もどんどん変わってきますし、自分も変われば子ども達も変わってきます。その子どもたちの行動も変われば、学級自体もどんどん変わっていきますよと、いう事です。

では1つ目に、まずは、学級は生き物そして「なまもの」であると言う事です。これまでたぶん聞かれた事もあるかと思いますが。生き物ですから、成長もします。そして病気にもなります。担任、あるいは教員の方からの指導が上手く行けば、当然みんなで笑いあったりとか、集中して考えたりとか、協力し合ったりして、活動を行う事ができます。ただ、この病気にていう所もあるように、それが上手くできなければ病気にもなっていくという事です。例えば皆さん、自分たちが小学校1年生の時を思い出してください。まわりどなんだったかなとか、あるいは自分自身の発達段階はどうだったかなとか。それと6年生、6年の頃はだいぶ変わってきますよね。1年生の時には1年生に合うような指導が当然必要だと思いますし、6年生なら6年生の指導が必要です。それは中1、中3、あるいは高校生でも同じだと思います。その発達段階に合わせた指導の方法も必要だと思いますし、特に子どもたちが何を求めているのかということをしつかりと見抜いて、それに合った手当をするという事も、大事にして欲しいなというふうに思います。それが下にも書いてある、「なまもの」と同じで旬があると、時期とタイミングを外さないようにして欲しいという事です。そういうふうと考えていただける事によって、学級はどんどん進化していけるんじゃないかなという事です。さきほど平木先生の方にもありましたけど、やはり、友だちに迷惑をかけない事、傷つけない事、あるいは悲しませない事と、やはりそれを、各学年に応じた手当、発達段階に応じた手当、そう言ったものを基本的には大事にしていくべきではないかなと、思っています。後は1人1人に合った、声の対応という事がポイントになるかなと思います。

続いて心得2です。終わりのイメージを明確にもってほしいなという事です。そこに書いています。皆さんだったらどうですかね、日本一の学級を作るぞ、こんなクラスを作るぞ、ぜひ日本一になるぞと考えられますか。ホームランぐらいの感じですよ。それとも、そこそこでいいかなと、どっちを狙われますか。手を挙げて頂くことはできますか。日本一を狙いますっていう方。あ、ないですか。そこそこで良いよっていう方。ああ手を挙げてくださってありがとうございます。私自身の考えですけど、私自身は、もうそこそこでいいかなというふうに思います。やっぱり、ホームラン

狙いで毎回ホームランばっかし狙っても、確率的に当然うまくいきません。それよりはヒットだろうが、ぼてぼてのゴロだろうが、セーフティバントであろうが、どんなのも良いので進塁させるためにやはり工夫した手立てが必要なのではないかなというふうに思います。その方が、それを積み重ねていった方が気持ち的にも楽ではないかなと思います。先ほど平木先生の方にもありましたけど、例えば友だち同士で、認め合いの場面を作る時に、私も帰りの会には、いいとこ見つけではないですけど、同じ班のメンバーで、必ず今日の人は、今日は4人いる中の1番目の人です。というふうな番号を決めていて、その人に対して今日この人が頑張っていた所、凄かった所、というものを、短冊に書いてですね、それを友達に渡して、それを1人1人がどんだんためて行って、そういうような「ほめほめあい」という風に私は名前を付けていますが、そう言う様な事を続けています。できればやはり、続けるのが無理がない事が、ポイントかなと思います。教員が無理をしても、子ども達に無理をさせても、やはり続きにくいと言う事もありますので、そう言った所もポイントに考えてもらえたらなと思います。あと、下の方に書いてありますが、終わりのイメージとはまあ、実際にじゃあこの学年の子どもたちが、3月にどんなことが言えるように育てたいのか、どんな文章を書けるようにさせたいのか、で、できるようになるのは、どういうポイントなのか、そういったものをやはり担任として持った以上は、年度当初からしっかりと、描いておくことが大事かなと、修正はその都度その都度できますので、そう言った所を大事に思っただけいたらなと思います。私がいつも尊敬する先輩方はですね、こういったところはしっかり持っておられますので、そんな先輩について行けるように頑張っていくと今やってる所です。

3つ目です。児童理解です。これはもう先ほどたくさんお話がありました。担任でしたら誰もが在籍する子どもたちの良いところを伸ばそう、クラス内で自分の居場所を作ってあげようというふうに考えると思います。それができる事によって、学級は子どもたちにとって伸び伸びと過ごせる、楽しい場になって行くと思います。それが子どもたちの成長であったり飛躍を促すようになっていきます。その為には、そこに1, 2, 3と挙げていますが、観察記録であったり、面接であったり、担任の姿勢がすごくポイントかなと思います。観察は当然自分の見たままの主観がどうしても入りますけど、そういうポイントで見ますし、記録に関しては、常にどんな行動をとっているのか、何を考えてこんなことをしたのかなといった、予測を含めてメモをとるように、付箋なんかをもってですね、その都度その都度書いて書きためていっています。そうする事でちょっとした子どもたちの変化が見とれるようにもなったりしますし、保護者にやはりね、頑張っている部分というのを伝えることにもつながって行きます。2つ目は面接です。どうしても面接をするのは何か起こった時と思われがちですけど、そうではなくて、月に1回はしてないですが、2カ月3カ月に1回は何が無くてもですね、最近どう？と言うような感

じで話したりとか、ちょっと嫌な事とか困った事とか無い？逆に嬉しかった事とか無い？というように感じで、紙に書かせれば済む事ですけど、そうじゃなくて面と向かって子どもと話をしていく、という事を大事にしています。そうすることではやり、質問した時に、ちょっと表情に変化があるとか、そういった細かな変化に担任として気付く事ができていきますので、こういった部分を大事にしているところです。あと、担任の姿勢という事で、基本的には愛情をもって子どもたちに接してほしいという事です。具体的にいいますと、表情、そうですね、相手の目を見て頷きながらであるとか、笑顔でそして共感してますよというような表情で話を聞くという事もそうですし、声かけていけば、否定するのは簡単なんですけど、それを捉え方を変えて、プラスの言葉掛けにしていくというような事です。たとえば忘れ物をよくする子に対して、「また忘れたんか」とかじゃなくて、昨日より2個減ったねとか、そういう捉え方次第で、プラスの方に持って行けますので、そういう形で、それが愛情ではないかなと、私の中では考えています。後は誉めるという事が凄く大事かなと思います。良い事、頑張っている事、一所懸命やっているなというような事は、やはり、平木先生にもありましたけど、個人に伝えるのはもちろん、タイミングもそうですけれども、やはり全体でしっかりと誉めてあげる、という事もその子の自己肯定感がアップしていくことにつながっていきます。そう言った意味で子どもたち1人1人を認めてやる事、それで自己肯定感だけでなく、自己効力感であるとか自己有用感であるとか、そういったものも育っていきますし、やはり自分の居場所、あるいは存在感を実感する事ができるのではないかなと考えています。担任が子どもの良さを見つけようとする。そういったクラスや、お互いに協力し合って、自分の力を学級のために役立てようというそういう、クラスがですね自然と支持的な雰囲気が生まれてくるのではないかなと考えています。

次に距離感です。なあなあにだけはならないようにという事で、どうしても若い先生で今まで何人か見てきた中ではですね、友だちのような感覚で、普通に敬語も無く喋ってしまっていると。そうになってしまうと、どうなのかなと。親しき仲にも礼儀ありではないですが、やはりその辺は教師と児童、或いは教師と生徒、そうなりますので、そういったところはしっかりとやって欲しいかなと思います。子どもたちとの信頼関係を築くのは大事なんです。信頼関係が無いと指導しても子どもには受け入れてもらえません。ただ、仲良くなりすぎるのはちょっとどうかなのもあります。下の方見てください。この先生は普段はほにやらら、でもほにやらら。どんな言葉を皆さんなら入れられますか？ちょっと30秒くらい考えてもらっても良いですか。どうでしょうか、みなさんどう思われますか。言うのは、難しいですか。いいですか。平木先生お願いします。

(平木) 2つ思いついたんですけど、1つはたぶん、うちのクラスの子はこの先生は普段はこわい。でも、僕のことを見てくれている。もう1つはこの先生は普段はやさしい。でも、厳しいところは厳しくする。みたいな所かなと思いました。

(田井) ありがとうございます。同じような考えをされた方、おられますか？ありがとうございます！すごく嬉しいです。そうだと思います。というか、何でも良いと思います。やはり、ふだんは優しいけど、でも怒ると怖いとか、普段はよく叱っているんだけど、でも僕のことをよく見ているから、わかってくれているとか。いろんな考え方があると思います。これは皆さんの1人1人の考え方によると思います。そこを私としては、ずっと持ち続けて欲しいなど、そこを大事にしてもらえたらと思います。子ども達に僕が言われるのは、普段はおかしいと、面白いと、変な事ばっかし言うとか、でも、真面目な所はしっかり押さえるので、許してくれない。みたいな所があるという風に捉えている様です。最後の心得5つ目です。三つの門構えというのがあります。これは担任一人で抱え込むって分かりますかね。学校では毎日いろんな事が起こります。良い事もあれば、嬉しい事もあれば、困ることもやっぱり起こります。後者の方がよく起こった時イメージが強いかと思いますけれども、良い事も悪い事も、先ほどの平木先生ではないですけども、やっぱり、どんどん伝えていってほしいなという事です。内にも外にも聞き、内というのは自分に対してもそうですし、自分のクラスにもその事をどんどん伝えていくって事もそうです。外にもというのはよくある、同僚、職員室の同僚であったり、保護者の皆さん、そして、地域の方々でも良いかなと思います。そう言う風にどんどん自分からオープンにしていって欲しいなという所があります。あとはずね、大勢の人の話を聞く、これもお分かりになるとと思います。どうしてもですね、自分の中に閉じこもってしまいますと、当然1人で抱え込んだら、自分勝手な判断でしかできなくなりますし、外部からの評価が、ある意味嫌味に聞こえてしまうと。そうなるってなると、危機管理の意識がどんどん無くなってしまっただけで、結果は皆さんもよくわかる、学級崩壊という事の方に繋がって行きます。ですから、しっかりオープンにして、話もしっかり聞く。後もう1つは、自分がこれまでやってきた事、実践してきた事を、やはり、世の中と言うとちょっと大げさかもしれませんが、保護者に対してでも良いですし、同じ同僚の教員でも良いですし、しっかりと、こんなんでやったんですけど、どうですかね。という事で、問うてもらう事が大事かなと、いう風に思います。以上のこういった、5つの心得を知っていただけたらなというふうに思います。

最後に、私自身、教員だけではなく、社会人も経験したという事もありますので、教員であろうが、教員でなかろうが、社会に出れば社会人として扱われるわけですから、社会人として身につけておいてほしいなという事を、手短かに話させてください。もうお分かりになるとと思います。まずは挨拶、そして言葉使いです。自分の方から積極的にしていただけたらと思いますし、正しい言葉使いもすごく大事です。あまり言いたくないですけど、教員は電話対応がどうしても苦手でして、自分が教職についた時に言われたのが、なんで電話が丁寧にできるんだと、なんで電話をそんなに大事にするのと、私はべつに大事にしている訳ではないんです

けど、でも相手があってこそこのついでという様な話から、やはり謙虚についていう事が自分の中にあつたのかなというふうに思います。横柄な方が多いとは言いませんけど、そういう方も中にはおられますので、その辺はどうなのかなという部分です。

続いて職場での基本的なマナーという事で、当然机上整理、よく言われますね。その周辺も含めてしっかりと整理整頓しておくという事。座っている姿勢、立っている姿勢、そういったものですね、しっかりと心がけてもらいたいかなと思います。あと最近若い先生とよく組むんですけど、どこにもおられなくなる事が時々ありまして、急にどこ行っただけかなと思ったら、教室の方に上がったっていたりとか、あれ？おらんかなと思ったら、パソコン室の奥の方に隠れていたりとか、そう言う時がちょっと、学年団で相談したい時とかに、話ができないという事もありますので、やはり、これは他の民間もでも同じだと思います。トイレ行く時もそうでしょうけど、ちょっと一言言う事によって、この手間を省かないようにして頂けたらと思います。あと好感をもたれる為という事で、「はい」という明るい返事ですね。やはり何か頼まれた時に、「はい」と言えるか言えないかもポイントかなと思います。たぶん自分の心の中では、「え？」っていう思いがどうしてもあるかと思うんですけど、そこをちっちゃい「っ」が入るくらい「はいっ」という小気味のいい返事ができると、相手の受け取り方が凄く変わってくるかなと思います。あと2つ目の、清潔な身だしなみもお分かりになるとと思います。名札等も含めてそうだと思います。3つ目。表情はすごく大事なかなと思います。相手を安心させるという意味も含めて、笑顔を忘れないでもらえたらと思います。最後に、書いていますが、誰に対しても、謙虚さを忘れずに、行ってもらえたらと思います。ここに挙げていませんけれども、先ほど平木先生の方は危機管理という事で、リスク管理と言いますか、そっちの方を話されました。できればその保護者と揉めないようにという事も含めて、そうだと思うんですが、私がここに呼ばれた原因の1つが、原因と言ったら変ですけど、理由の1つに、かなり大変だった保護者がおられた。その保護者を担任して、1年間乗り切ったという事があったからかなと、考えています。具体的にいいますと、6年生で担任をしました。1年生から5年生まで担任の先生は、やはり病んでしまったり通常学級の担任を持てなかつたりとか、途中で病急で倒れたりとか、実際に教員を辞めてしまったりとか、そう言った様な先生方がおられました。自分自身それを6年生でもてと、管理職の方から言われて、これはどうする事もできないと、なにより仕方が無いと考えて、まず一番最初にした事は、犬を飼いました。4月1日に担任発表、金曜日でした。次の4月2日に犬を飼いました。なぜか分かりますか。癒しを求めてですよ。この1年ほんと乗り切れるんかなという思いがあって、まず犬を飼って、家族も飼いたかったというのもあったんですけど、そういうふうに自分の中で少し変えていこうというようなことをして行きました。その保護者さんはやはり、ちょっとはつきり言いますとですね。パーソナ

リティ障害でして、いろいろな事を自分の中で、完結して話を作ってしまうような方で、それは学校が悪いんでしょ、こうだったでしょ、うちの子は絶対こう思ってる。ていうような、自分の中で全てシナリオを作り上げてしまっ、おられる方でして。それに対する対応が、1年生から5年生の先生方もしっかりされておられたんですけども、管理職と上手く対応が合わずに、逆にしつこくその保護者に詰め寄られて、もう学校に行くのはえらくなる、という事が、実際にありました。私自身はあまりその辺を深く、必要最低限、ほんとはあった事実だけを伝えるという形で、必要以上に話をすればするほど、相手はその辺の上げ足をとってくるのはもうわかってる事なので、そう言ったところはやはり、保護者に伝えるのは事実であると、こっちの感情とか想いを伝えすぎると、逆にそこが破綻への道につながるという事もすごく感じました。実際に卒業前に、折れてもいない骨が折れたと、言われて、整形外科の方にも、結局診断書を作ってもらって、腫れてたりとかそういうことも無いんですけども、保護者が納得する形で、お医者さんの方も、診断書を出されたというのもあるんですけども。そういった様な事も実際にあったりしながらも、やはり、一番誠意を示すという事もそうですけど、かといって、相手のいいなりになるかという、そこは違うので、やはり学校としてできるのはここまでです。それ以降は管理職であったりとか、教育委員会であったりとか、そういった所が、バックアップしてくれるという部分もありますので、皆さんにお伝えしたいのはですね、教員になるのは、ちょっと嫌だなと思われるかもしれませんが、これは別に他の民間の企業でもあり得る事ですので、そういった事も知った上で、一社会人として、皆さんには、今後の日本を築いていってもらえたらなど、いうふうに思います。

すみません拙い喋りで、時間をオーバーしたかと思いますが、どうもご静聴ありがとうございました。

(石本) ありがとうございます。田井先生の方からもいろいろと重要な話があったと思うんですけど、1つ、民間の会社を経験して、教員になられたという事でね。2年生の人は教採受けるかどうかなんて事は全然決まっていなと思うんですけど、4年生の中にも教採を受けてない人、民間に就職する方もいると思いますし、それ以外の学年でもね、鳥大は実際教採を受けない人が多いくらいですから、教員にならない方もたくさんいると思うんですよ。でも、その後でね、一旦民間企業に勤めた後で教員になるという道も、もちろん開けてるので、教員に向いてないからならないなと思った時に、教免を諦めなくても良いと思うんですよ。途中まで取ってしまったら、最後まで取ってしまったら良いと思いますので、下の学年の方に言ってますけどね。そういうふうにして教員免許取っていただいて、後々自分の人生の中で、気が変わることがあるかもしれませんから、その後、民間を経験して、教員になるという事もあるんじゃないかな、そういう人生プランもね1つ参考になるんじゃないかなというふうに思います。あと、児童理解の中での児童との面談

というところでね、悪い事だけでなく、良い事、普段からという事もありましたけど、平木先生の話の中にも、保護者に電話する時も悪い事だけじゃなくて、良い事も、という話もありましたけど、やっぱり、クラスが大変だったりする時に、悪い所ばかり見るんですよ。良い所よりも悪い事が目立ちますし、基本的にはね。問題が起きたとか、手を出したとか、教室を抜け出したとか、そういう事ばかり気になりますけど、そういう時こそ、意識的に良いところですよ。良い所とか頑張っている所とか、その子なりに伸びた所という所に目を向けるというのはすごい大事な事ではないかなというふうに思いますよ。最後にお話いただいた、社会人としての姿勢という所についてもね。当たり前かもしれませんが、大学ではなかなか学ぶことは無いと思いますけど、やっぱりすごく大事な事ではあります。大事な事というのはね、そんなこといくらでもこれまでも言われてきたかもしれませんがね、学校から。何のために大事かっていう事はあまり言われなかったかもしれませんが、あれは自分にとってですよ、結局。みなしだみとか言葉使いとか、僕等らそんなことは言えませんがはっきり言って、大学教諭は誰からも学べないので、はっきり言って僕は電話対応とかできる気全くしませんけど、そういう事を学んでおくことによって、周りの先生から協力を得やすくなったりとかね、そういう風にしてね、自分のためになるからですよ。社会人として良いからとかそういう話じゃなくて、周りから助けを得られる事というのはすごく大事な事で、平木先生もね教員と色々な話をする、という話もありましたし、田井先生の方からも、困った時に、ほうれんそうという話もありましたけど、学校の先生ってはっきり言って、過剰労働の部分がありますし、そういう面は実際あるんですけど、そういう時1人で、特に小学校の場合は自分の学級って感じになってしまっ、1人で抱えてしまう先生もおられるんですけど、そうじゃなくて、やっぱり外と繋がるというのはすごく大事になってくるので、そういう為にも、繋がりを得るために、社会人としての姿勢というの、学んでもらったと思います。それはね大学で学ぶというより、大学の外でバイトしたりとかそういうところで学んでいくものかなという気がしますがね。ありがとうございました。ではですね、みなさんからもご質問とかあれば、お聞きしたいなと思うんですけど、この時点で、何か聞いてみたいという事がある方いらっしゃったら。

(学生1) 貴重なお話ありがとうございました。地域政策学科4回生の大島と申します。ちょっとご質問したいんですけども、今僕が身近に聞いた話として、幼稚園の特別支援で、親御さんは普通学級に、小学校で普通学級に入りたい、けど現場の先生方としては、特別支援学校の方が良いんじゃないか。そういうのもあって特別支援をちょっとお聞きしたいんですけども、先生方、学級の中で、例えば特別支援が必要な子に対して、どの様な支援を行っているのかという事をお聞きしてもよろしいですか。

(平木)私の方から、私は今まで、どのクラスを持った時も、特別支援が必要な子は必ずクラスに居ました。で、今どの現場も、たぶんどどのクラスも、支援が必要だけど保護者の了解を得ないと、特別支援学級には入れない。という事で、そのような子はたくさんいます。なので、先ほど言ったみたいに、やっぱりその子にあった支援をする。もちろん個別の支援。支援といってもいろんなのがあって、支援学級に行くほどのものと、例えばそうじゃなくて、書きだけ、書く事だけがとにかくできない。読むのはできる。とか読むのはできないけど、書くのは得意とか、その凸凹している子どもさんがとても多いです。なので1人1人に合った対応を、もちろんして行くんですけど、それ以外にもクラス全体として、例えば読むのが苦手な子に対して、例えば「ビーバーの大工事」だったら北アメリカ、という言葉が出てくるとしたら、北アメリカとか湖とか、そういう言葉をフラッシュカードで教えていく様な事。それはその子に対しての支援でもあるし、またクラス全体に対する支援にもなるという風に考えて、対応しています。先ほど言われた幼稚園からね、上がってくるっていう事だったんですけど、本当になんでこの子入っていないんだろ。という様な子が、一杯学級の中に居て、それを少しずつ保護者との関係を作りながら、その子の良い事も伝えて行きながら、でも、本人が困っている。お家の人が、私も親なのですが、子どもが困っていたら、それは助けたいと思うのが親の心です。なので、学級の中でこの子は、本当はもっとできるのに困ってるんですけどいう事を伝えて、少しずつ少しずつお家の人に、その子の困っている事を伝える事で、分かってもらっていく。支援学級に行かせるのが嫌だっというお母さんは、支援学級の事知らないです、基本的に。支援学級の事知らずに、私たち世代はね、仲間外しにされるとか、意地悪されるとか、クラスからのけものにされやすいとか、そういう負のイメージばかり持ってられますけど、今支援学級に行ってる子は、その後の将来が凄く開けています。社会がそういうふうに変わってきているんだよっていう事もたくさん伝えていく。そして、支援学級に行く事のメリットをたくさん教えてあげる。そうすると、割と小学校にはいつから、うちのクラスも今年、気持ちを換えられて、1人保護者の方が支援学級に入れます、来年から入りますって言うてくださる保護者の方もおられます。そういうふうな気持ちは、お家の人の気持ちは、担任次第でなんぼでも変わるので、そこの所は心配されるというかね、そういう事は無くても良いかなと思います。どうですか先生

(田井)失礼します。もう平木先生が言われた通りです。困り感がやはり、子どもにあるかどうかかなと、言う所です。それを周りの担任であつたりとか、学校の職員が、気付けるか、という事もありますし、どっちかと言うと、担任が困るのでは無く、その子が困っているかどうかのほうが、ポイントかなと。それを保護者がどういう風に受け取って、この子がすぐに飛び出して困るのではなくて、嫌な事があるとどうしても飛び出す原因ってなんだろうかと、それがやはりクラスの中で、一斉指導を受ける事が辛かったら、じ

ゃそうじゃなくて個別の教室でその時間はやろうとかか、そういった選択制といいますか、選択肢を与えてあげて、じゃこの部屋だったらできるよね、とかそれができなくても、机、椅子に座るのがダメだったら、じゃあ地べたの後ろの方でやろうとかか。そういう子どもたちに選択をさせてやる、という事も私は、特別支援が必要であろうがなかろうが、大事な事じゃないかなというふうに思います。一律にどうしても、小学校とかは、教示型として一斉指導しないといけないという風なイメージがあるかなと思うんですけど、実際自分の学級にもそういう大変な子はいます。嫌いな国語とか受けようとしません。でも、その子を、その子だけ特別とかそういうのではなくて、でもフラフラしながらも、結局は自分が興味あることなら食いついてきて、座って授業も参加をしてきます。周りの子たちにも、絶対座ることが大事とかそういう事は言いません。いろんな子がいて、みんないろいろある中で、集団として育てていくんだよね。というような話をしながら、十人十色ではないですけど、そう言った所も認めていく部分のほうが大事かなと思っています。特別支援に関しても、本当に全員にそれが、1人の子に対して特別な支援をする事、視覚的に与えていく事に関してもそうですけど、結局クラス全員のためになる訳ですから、それはどんどんしてもらっても良いと思います。私は選択肢を与える事のほうが大事かなと、多様性を受け入れる、子ども達を育てるという意味でも必要かなと思います。担任として多面的にその子を見えるかどうかと、悪いとこだけじゃなくて、良い所もいろんな一面を持っているんだ、いろんな面を持っているんだなということが、見えてやれたら良いかなというふうに考えています。

(石本)ありがとうございます。ちょっと補足します。そもそも幼稚園とか、小学校や中学校に上がる時もありますけど、いわゆる就学相談とかでね、特別支援学級に行くか行かないかという話は常に出てくる話ですけど、大前提として、どういう子であったとしても、特別支援学校とか特別支援学級が良いか、通常学級が良いかどうかというのは、中々言いきれなくて、学校の環境にもよるんですよね、結構ね。学校とか学級の環境が良ければ、特別支援学級行かなくなつて、ぜんぜんやっつけていける子って本当にいますから、そういう意味でも幼稚園の段階で判断する事なんて、ほとんど不可能なんですよ。下手すると特別支援学級の環境が良くない場合も、残念ながらある事もあるので、そういう意味では小学校はどんな学校かにもよるので、一概に言えないのが難しい所ではあるかなというのがまずあります。それでも、先ほど先生もおっしゃったんですけど、保護者の方にね、特別支援学級を勧めないといけないシーンというの、中には現状あると思うんですけど、そういう時はやっぱり、その子のメリットを伝えるという事ですよ。この子が困ってて、この子がそこに行ったらこういうメリットがあるから、良いんじゃないでしょうかね、というふうに伝える。そこ失敗するとね、最初に失敗して、若干厄介払いみたいなニュアンスが伝わったら、もう話聞いてくれませんかからね。最初の

伝え方はすごい大事なかなというふうに思います。いま田井先生が言っていた選択肢っていう考え方ね。すごく大事で、でもね選択肢という言葉がね、学校の先生から出てくる事ってほんとにね、結構稀なんですよ。僕はすごく嬉しいんですけど、選択肢を作るというのはすごく大事な事なんです。それってね、ユニバーサルデザインといわれるものです。選択肢があれば特別支援が必要な子でも、結構やっつけていけるんです。特別支援が必要な子以外にも、選択肢が必要な子はたくさんいます。そういう選択肢はほんとにすごく大事なんですけど、やっぱり学校っていうのは余裕が無くなると、特に画一的にしようします。極端な話で言うと、最近も雑誌で特集書かれてましたけど、水筒に水しか入れてはいけません。とかね、よく分からないルールがある小学校はやっぱりあるんですよ。それっていうのは、余裕が無くなってくるとそうやって来るんですよ。そうならないように横のつながりですよ。先生同士のつながりを持って、選択肢をつくって行くってのはやっぱり大事な事かなと。ありがとうございます

(学生2) 今日はお話ありがとうございました。質問したいんですけど、私が教育実習にいった時に、担当して下さった先生が、6月が凄く大変な、学級経営の中で、大変な時期っていうふうに言っていて、それで、そうなんだと思ったんですけど、先生方は学級経営の1年の流れとして、この月は特に力を入れる月だとか、そういう意識されてる事はありますか。アドバイスなどが、あれば教えていただきたいです。お願いします。

(平木) 6月ですか。そうですね。確かに1年の学級経営は、1学期の内に決まるとかいう言葉はよく学校の中とかで、研修とかでよく聞くんですけど、そんなに意識はしてないんですけど、ちょっと忙しいですね。4月、5月、6月はやっぱり学級の基盤を作って行きたいところなので、なかなか自分の、前の担任の事もあるし、子どもたちと自分との関係を作るという面でも、そういう意味だったのかなと思う

んですけど、6月くらいまでは、やっぱり自分のこういう方式でやりたいとかこんなふうな所で先生は怒るんだとか、ここは譲らないんだとか、っていう事を子どもと理解し合う、共通理解し合うっていう所では、4月、5月、6月、7月ずっとかな、ずっとの様な気もするんですけど、そんな意味で言っとられるのかなと、感じましたけど。

(田井) 波があるんですよ、やっぱり学級は。みんなてこう1つの行事がよくある、運動会であるとか、学習発表会であるとか、何かイベントがあったりする時に、こう盛り上がって、それが済んだ後どうしてもまた下がって行くと。それが例えば、長期休み明けとか、夏休み明けとかは危険といったら変ですけど、もう1回作り直さないといけないとか。そういったような、行事ごとであったりとか、区切りがある所で、しっかりともう1回締め直すと言いますか、もう1回みんなで一致団結して、自分達の学級目標に向かって取り組んでいこうとか。そう言った所を再確認するって必要はあるかなと思いますが、時期として6月だけではないと思います。6月も大事だと思います。それが3月のどういう形につながるかなというのを明確に持ち続けることが私としては大事なかなと思っています。

(石本) 6月というのは統計上、いじめが一番でくる時期ではあります。だから6月は大事っていうのは、ある意味嘘ではないです。でも、6月でなんで出てくるかといえば4月5月でちゃんとしなかったからですよ。だからやっぱり、4月5月も大事、ずっと大事なんですよ。そういう意味で、4月5月も大事で、ずっと大事だけでも、6月にある意味注意しておくという事も、ある意味理にかなった話かなと、いうふうに思いますけどね。

今日はね、平木先生と田井先生に貴重な話を頂きましたので、二人の先生に拍手で終わりたいと思います、ありがとうございました。

## テーマ2 「学級経営」

(片山) それではこれから、第2回目の学びのパネルを始めさせていただきます。今日は鳥取市の小学校、中学校から各お1人ずつの先生に、おいでいただきました。ご紹介しますね。先ずみなさんに向かって左側から、鳥取市立用瀬小学校の山根尚子先生です。そして続きまして、鳥取市立中ノ郷中学校の谷口朋宏先生です。よろしくお願います。谷口先生は理科の先生でいらっしゃいますので、理科の教科で、皆さんの中にもひよっとしたら興味持って、座っていらっしゃる方もあるかもしれません。それでは、学びのパネルの趣旨について、石本先生の方から、ご説明をいただきます。

(石本) 教員養成センターの石本です。昨日もパネルに参加した人にとっては、同じような話になりますけど、今日も1年生が多いと思うんですけど、1年生の場合は教科の授業もあり、生徒指導とか教育相談の授業もあり受けられてないと思いますけども、これからね、教職課程を進めていく中で、教科については結構習う機会も多いと思いますし、生徒指導とか教育相談については、私の授業とかで、(授業を) 取って習う事もあると思いますけど、教育相談とか生徒指導とかは、(授業の) 数は少ないですし、学級経営そのものについて学ぶことってあまりないんですよ。教科指導に関しても、授業によっては、教科指導を通した生徒指導とか、児童の支援という事も話をする大学の授業はあると思いますけど、基本的には教科の教え方の

方が多くなっていくかなと思います。なので、大学の授業でね、こういう話を聞く機会というのは少ないと思いますので、参考にね、聞いていただけたらと思います。生徒指導とかね、教育相談とかね、そういった子どもの支援っていうのはね、やっぱり全ての基本になってきますし、一方で教科の指導がちゃんと上手くいってなかったら、クラスの学級経営も上手くいかないということにも繋がっていったりするんで、両面的な所がありますよね。その辺についても注目しながら。最後の方にね、質問を受け付ける時間を決めていますので、昨日も何人か質問をいただいて良かったんですけども、今日もぜひ後で。質問を尋ねると、(質問は)出てこないんだけど、終わったあとで個人的に質問に来る学生が何人かいるんですけど、その気持ちもわからなくてもいいんですけど、できれば全体の場で質問を出して下さい。こんなくだらない質問出せないかとも思わなくていいので、どんな質問でも構いませんから、何かしら疑問に思ったりする所があれば、あればというか疑問に思う所がないというのは聞いてないも同然なので、何かしら疑問を見つけるくらいのもりでね、聞いていただけたらというふうに思います。では、山根先生の方からお話いただきたいと思います。

#### (1) パネリスト講演：

山根尚子 鳥取市立用瀬小学校

(山根) 失礼します。こんにちは？こんばんは。

(会場) こんばんは。

(山根) ありがとうございます、ただいまご紹介に預りました、鳥取市立用瀬小学校の山根と申します。用瀬という所はご存じの方のくらいおられますか？ありがとうございます。最初に(資料が)まわっていますけれども、雑流し行事が有名な所ですし、2年前に私は、水泳指導で子どもたちをプールに連れて行く時に、プールの隣の山に、黒いモフモフした塊を見つけてしまって、ちょっと大騒ぎな事があるんですけども、熊です。自然がとっても豊かで、子どももほんわかした学校に勤めさせてもらってます。それから、私も、この鳥取大学の卒業生でして、西岡研究室で音楽を勉強させてもらいました。とっても今日懐かしいなと思って、来させてもらいました。初めにお断りなんですけども、あくまでも沢山いる教員の中の、1人の見解というふうに思って聞いていただけたらいいかな、と思いますし、こんな所で偉そうにお話出来る様な人間ではないんですけども、すみません週末のね、帰りたい様な時間に、お話聞いていただけるそうでありがとうございます。では本日は、簡単なレジュメをお配りして思うんですけど、このような流れでお話をさせていただきます。皆さんのニーズとか、先生方から期待された内容と、ちょっとズレがあるかもしれませんけども、ご了承ください。

いきなりなんですけれども、皆さん小学校の先生っていうの、どんなイメージをお持ちですか？こんな風に思っている人があるんじゃないかなという事を、お話しますね。小

学校の先生って、やさしいとか、字がきれいとか、そんな事思っておられませんか？子どもが大好きなんだろうとか、それから、朝から「は～い、みなさ～ん。」とかってテンション高い先生が多いとか、いろんな教科を持っているので、体育も音楽もできてオールマイティーな人が多いんじゃないかなっていうふうに思っておられる方はおりますか？おりませんね。こんな素敵な先生がおられたらいいんですけども。理想はそんなんですけど、現実はそのようなので、自分は向いてないな、なんていうふうに思われなくて下さい。ちなみに、一緒に過ごしている子どもたちからは、お母さんより怖いとか、宿題忘れたら注意されるとか、給食の時間にお母さんはここまで言わないのに、魚でも野菜でも食べさせられるとかっていう風に、思っている子どもが多いみたいです。今日中学校の先生がいっちゃってますけれども、例えば中学校と比べて、小学校の先生というのは、殆どの教科は学級担任が受け持っています。それから朝から、帰るまでずっと一緒に過ごしていますので、朝の会から休憩、給食、掃除、という風に、全く休憩が無いわけではないですけども、ほとんど(子どもたちと)離れる事はないです。それから1年生から6年生まで、発達段階に合わせた指導が必要なんですけど、例えば6年生を担任した後、次の年は1年生の担任だったという事もありますけども、そうなった時には、あれ連絡帳が書けないとか、給食の指導からしなきゃいけないかなとか、毎年の醍醐味なんですけれども、そういう様な感じを受けながら勤めています。それから、学級担任を受け持ちながら、ずっと朝から晩まで一緒に居るという事なので、授業の教科指導と学級経営というものが、切り離せないというのが小学校の特徴ではないかなと、中学校ももちろんそうだと思うんですけど、授業が上手くいってないと、学級が上手くいかないって事もありますし、学級がまとまりがないと授業も成立しないというような所もありますので、この辺りは関係が深く深いかなと思いますし、学級担任の他にも、学校全体の中の役割として、校務分掌がいろいろありますけど、例えば私は、そんな得意ではないんですけど、音楽の主任をしたりとか、特別支援教育の仕事をしたりとか、不登校の児童の対応をしたり、家庭訪問に行ったりとか、教育相談と言って、保護者さんの相談を受けて、医療や専門機関と繋げるというようなお仕事もしています。

では、小学校の教科指導についてお話しします。小学校は教科が多いので、全てにおいて専門的な知識を得ておくというのは、ちょっと不可能ではないかなという風に私は思っています。後で話される中学校の先生とかは、理科の先生とかいうふうに1教科に絞って、専門性の高い先生が揃っておられるんじゃないかなと思いますけれども、小学校は教科が一杯あるからというのを理由にはいけないんですけども、子ども達に教えられるだけの知識があればいいかなと。勉強もします。教科書を読みながら、もう一回学び直す事も多々あります。これは、今年私が持つてる5年生の時間割なんですけれども、朝から6時間目まで、月

曜日から金曜日まで6時間で、週に30時間のコマがあります。先ほど沢山の教科を受け持つんだというふうにありましたけれども、全部では無くて、4月の段階で学校で、例えば私は理科の授業は他の先生に受け持つてもらって、代わりに他のクラスの音楽の授業を担当するとかというふうに、交換をしたり、入ってもらったりという事をして、学校によってそれぞれ受け持つ時間(数)は違うんですけど、26時間くらい持っている小学校が多いかなというふうに思います。私は今年特別支援学級の担任をしていますので、4年生と5年生が来ますので、どちらの時間割も交流しながら自分の学級で国語や算数や自立を教える、それから他の時間は交流学級に子どもたちについて行くという事をしながら、6年生の音楽も授業を受け持っていますので、今年は私には空き時間はありません。30時間週に担当していますけれども、そのかわり、交流学級で学習をする時には、交流学級の担任の先生が主になって、学習を進めて下さっていますので、6時間分ばかり授業の準備をしておかなければならない、という1年間ではありません。授業の準備なんですけれども、これは単元の一覧なんですけれども、大体教科ごとに年間指導計画というものがありますので、それに沿って、1年間の単元一覧です。例えば4月の国語はこの単元をします、とかいうのが、5月までにここまで進んでたら良いなとかいうのを見ながら進めてまいります。それから授業の準備なんですけれども、どの教科も丁寧にするのが理想ですけども、それはちょっと難しいかなと思います。例えば算数だったりすると、単元の流れを、1週間、土日の間とかに指導書とかを見ながら、6日間でこの単元は終わるんだとか、流れを確認しておいて、毎日必要な準備があれば、ちょっとずつはするんですけども、教材の解釈とかも、同じ学校の先生とここはどうかなって話をしながら進めて行きますので、1人でなにかも準備をしないといけないという事はありませんし、今年作っていた教具を来年の同じ学年の先生が使われるというような工夫もしていますので、そんなに大変な仕事だとは、大変な部分もあるんですけども、工夫は沢山できます。それから、単元の見通しを持つというふうにお話したんですけども、例えば教科書では、面積の勉強を5年生でしますけれども、長方形や正方形の面積の出し方はもう勉強しますので、順番としては三角形、平行四辺形、台形というような順番で教科書には出ているんですけども、最初の導入の段階で子どもたちと、どの形だったら面積出せそうかなというような話をしたりして、子どもたちも、学習の流れだったり、形を変形して行けばなんとかなるのかな、という様な意見が出てきた場合には、今年なんかは平行四辺形の方を先に勉強して、三角形を後にして、とかというふうな、順番を入れ替えたりという事もしますし、行事とかからめてまるまる単元を入れ替えて、11月にするものを9月に持ってきてという風に変えたりするという事もします。中学校でもですし、小学校ですけれども、授業を教えるのって、とても難しいんですけども、研究授業というのをします。実習に行かれた方はね、教育

実習で指導案を書かれたんじゃないかなと思いますけれども、だいたい小学校では学校体制で研究を進めていますので、うちの学校ではメインに1人が1回研究授業をするって事で、同僚お互いに授業を見合って、良い所とかここは直していこうとかという研究をしています。その時に指導案で、やっぱり学習の今日のねらいは何なのかとか、予想を、発問に対する児童の反応はこんな風なんじゃないかなとかという事もなんですけども、支援が必要な児童、すぐには分からないかもしれないな、という児童にどんな手立てをしておく必要があるのかという事を、どの授業でも考えておく必要があるなと思います。それから板書をどのようにしたら、お話が全部入ってなくても、視覚的に見たら何となくわかる、というお子さんもありますので、どういう風に板書に1日の授業の流れが黒板に収まっていたら良いかというような計画も立てたり、それから、授業の中で子どもが主体的に取り組むような場、というのが、どこになるかなというのを設定したりというような事もしますし、子どもたちにノート指導する時に、毎日、算数ならこういう形で、一番最初に問題書くよ、ねらいを次に書くよ、ずっと式と言葉で説明するよ、とかっていうふうに、大事な事は友だちから出た意見でも書いとこう、とかっていうようなルールをもう決めておいて、パターン化しておく、子どもたちがその日勉強が難しかったとか、宿題の時にちょっと困ったなとかっていう時にも、参考になる様なノートが作れるんじゃないかなと思います。先ほどもお話ししましたが、授業作りというのと、学級経営っていうのは切り離せないなと思います。これはある年の私の学級経営方針の一部なんですけれども、自分がこう、大切にしようとしている事というのは、どの学年を担当してもそんなに大きくは変わらないなと思います。その中で私はいつも、毎日学校が楽しい、勉強が分からないとかもあるかもしれないけど、学校が楽しい、毎日行きたいなと思える学級を作りたいなというふうに考えています。そのためにはやっぱり、授業が分かるよう、勉強が分からなくて面白くないとならない分かる授業作り。それから教室とかの環境整理ですね。環境や、人間関係の環境もなんですけれども、こんな活動したら子どもたちが「やったー、楽しかったな。」とかっていう様な、満足感とか成就感とあって味わえるような教育活動だったり、学校行事だったりというものを設定するという事などが考えられるんですけど、やはり何より安心して学ぶことができる、仲間づくりというのがどうしても必要で、授業をする時にですね、子どもたちが色々発表したりするんですけども、とにかく間違っても失敗しても平気だよという人間関係ができてないと、授業が成立しないというか、発表をね安心して出来るという環境になりません。それから、友だちはどう考えているのかな、というのを聞きたがる子、「分かりません。」と言うのを、素直に恥ずかしがらないで言える子、教師と子どもたちの、あるいは子どもと子どもという人間関係づくりというのも必要だなと思いますので、授業も大事なんですけども、やっぱり人を育てるという事なの

で、集団の中の人間関係づくりっていうのもとても大事になってくるなって思います。学級経営については、昨日も学級経営の先生が、お話をされたんではないかなと思いますけれども、私はこのような事に心がけています。1人1人の良さを認めてやる。ちょっとした事を誉めていく。なかなか自分から進んで話せない子とか、会話にはならないんだけど、ニコッとする子とか、いろんな子がいますので、1日に1回は会話をしたり、連絡帳なんかで、今日頑張った事とかというのを書いた時、こんなのができたんだとかって言って話をしたりっていう風に努めています。それから、学級を最初に立ち上げる時に、話はするんですけども、誉めてばかりじゃなくて、やっぱり良くないという時には、きちんと正しく叱らないといけないという事があるので、私は子ども達に、暴力とか言葉で人を傷つける事、人の物を盗んだり、移動させたりする事、嘘をつく事、というのは大きくなったら警察に捕まる事だから、絶対やってはいけませんという話をしています。それから、宿題ですね。先ほども言ったんですけども、宿題のまる付けは、小学校の先生の大変な仕事の1つですけども、家庭学習の習慣付けというのは、大事だなと思ってやっています。学習の定着という目的よりも、提出物を、先生との約束として、明日までにここはやってこようと言われた事を、確実に出せるかという様な所の方を私は重視しているとか、頑張ってやってきた事を、誉めてやるというチャンスにもなりますし、お家の方の意識も一緒に上げていくっていう事も大事なので、家庭学習って大事だなっていうふうに思います。それから保護者さんとか、地域の方っていうのを味方につけるためには、懇談の時に「私ってこんなできない所があるんですけども、助けてくださいね」というふうに最初にお話しておいたり、4月の最初には、担任とか学校にもしご不満があっても子どもさんの前では、先ずそれを話さないで下さいと。一緒になってね、子どもさんとそういう風に、担任や学校の事を批判する様な事になると、すぐに子どもって学校が嫌になったり、先生の事を信頼できなくなったりするので、そういう事になった時には遠慮なく連絡帳とか、電話とかで連絡をしてお話下さいという事をお願いしています。学校行事もね、目的が明確になっているので、1つの方向に向かわせやすいという所があります。

いろいろとお話してきたんですけども、私は皆さんが生まれた頃から先生をしています、20年位教員を続けているうちには多くの失敗もしてきました。失敗が多いから今日呼んでいただけたんじゃないかなって思っていますけれども、失敗した原因っていうのを、学級経営が上手くいかなかった、子どもたちに申し訳なかったなって今では思うんですけども、上手くいかなかったなって事を、思い出していますと、異動がね、教員でするので何年か経つと次の学校へっていうふうに異動があるんですけど、異動によって私たち教員の方が環境の変化にすぐに対応できなかったり、学校のルールだったり、子どもの様子だったり、地域との関係だったりという所に、すぐに対応できなかった事もあっ

たなとか、我が子を妊娠しましたという時に、これを優先しようというふうに思ってしまったって、どちらももちろん大事なんですけれども、そこが子ども達にすごく伝わったんじゃないかなと思います。愛情を十分にかけてやれなかったんじゃないかなっていう事を反省します。これはもう毎日なんですけれども、忙しい忙しいって言って、多忙感というのは、多忙感です、本当に多忙かどうか分からないんですけど、多忙だなと感じている人は多忙感を抱えているって、もうイライラというのは子どもたちはすごく敏感に受け取りますので、伝わって行くなというふうに思います。それから、子どもたちの事がよく分かっていなかったなあと。(学校に行き)渋っている原因って何だろうとか、どんな特性があったのかな、ということがよく分かっていなかったという事で、失敗をしたという事を思い出します。ただ、失敗はたくさんするんですけども、そのたびに同僚とか、また教職ではない友だちとかね、いろんな人が助けてくれました。自分の弱さとか失敗とかというのはやっぱり、1回認めて、ここは直していかなきゃなとかっていうふうに思うんですけども、その時はとても必死です、パニックになるようにね、こんな事はやっていけないとかっていう風に、思ったりする事もあると思います。けれども、ずーっとはそれは続かない。学級が変わったりとか、何かのきっかけで、ふっと良くなったりとか、左側に書いてある様な事の、反対を考えて、何があっても愛情、子どもたちを大事にしなきゃいけないなとかっていうふうに考えていくと、上手くいくなっていうふうに思いますし、助けてくれる人というのは、同じ教職ばかりじゃなくて、同じ学校の先生たちも、もちろんですけども、専門機関の相談員だったりとか、医療のお医者さんだったりですとか、スクールカウンセラーの先生だったりとか、たくさんの方が関わって、助けてくださいました。

今日ね、こんなお話をって言われた時に、「学生の間にしておいた方が良い事というのがあれば、伝えておいてください。」というふうに、宿題をいただいていたんですけど、「学生さんの方が一所懸命きつと勉強されてるしな。」とかっていろいろ思いました。で、私の反省を生かして、上手くいなくても、次にいろんな手がありますよ、という柔軟性というのをね、これがダメだったら次をやってみようかというような柔軟性ですね、だったりとか、健康は大事です。体ですけど心も健康でないと、1日中ね子どもたちは、好きだろうが嫌いだろうが、担任の先生はずっと見てなきゃいけませんので、先生が元気でないと子どもたちも元気が出ないです、元気でやれると良いなというふうに思います。それからこれは高校までにはあまり学習をしてこなかったんで、大学に入ってから勉強したり、教職に就いてから、さらにね勉強というか実態が分かってきたという事なんですけども、やっぱり、こうやって皆さん大学に入っておられるので、トップでなくても、優秀な方が集まっておられると思います。学習を聴いていて、分からなかったとか、落ちこぼれてたとか、自分のせいじゃ

ないのにパニックになった事があるとか、いくら頑張ってもできないとかっていうような子がたくさんいるんですけど、そう子供たちの気持ちがちよっと分からないという時もあると思います。そういう辺りを、特性というのを勉強しておく、いろんなお子さんがいるんだとか、こういう良い所があるんだとか、こういう所を伸ばしてやると力が発揮できるんだという様な事が、分かってくるんじゃないかなと思いますし、たくさん先生に、助けてもらおうと思えば、「ありがとうございます。」とか、「すみません。」「感謝しかないです。」とかっていうふうに、若い先生が言って下さるんですけども、やっぱり謙虚さって大事だなと思いますので、教職を目指す方だけではなくて、社会人になられる方に皆さんに共通するのかなと思いますけれども、人としてどんなふうに豊かな人間であれたらという事を考えながら、学生の間を、大学生活を楽しんでもらえたらと思いますし、皆さんがお暇だというふうに思っては無いんですけど、私が大学生だった頃は、学生の時間ってすごく時間がありましたので、そういう時間がある時にできる事、こんな冬でしたら、スキーに行くとか歌を聴きに行くとか、いろんな学習以外の事もたくさんできると思います。先ほど私、西岡先生の研究室を使ってお話したんですけども、私は西岡先生から、学んだ事、音楽は学んでもね堪能にはならなかったんですけども、この音、1音でも綺麗でしょとか、西岡先生ね、すごいね、すっかりお年をとられていると思うんですけども、お元気ですね、西岡先生知っておられますか？ととても感動、今日の夕日綺麗だねとか、おいしいラーメンがあるんだよとかっていうように、いろんな楽しむとか、生きてるって楽しいよ、みたいな所を教わった気がします。西岡先生だけじゃなくてね、奥さんとか、ご飯を食べさせてもらいに行ったりとかしてたんですけども、大学の先生というのは、専門性ってだけじゃなくて、こんな事もいろいろ教えて下さるんだなって、後になって思いますけども、今大学の内にいろんな体験をしておかれると、子どもたちに、先生こんな事した事あるんだとか、こんなんやって失敗しちゃったんだとかっていう様な話にも繋がると思いますので、やれておくといいかなと思います。

終わりにになりましたけども、小学校の先生ってこのを、仕事の大変さを紹介してきたようで、とても心配なんですけれども、子どもは本当に元気ですので、子どもから毎日エネルギーをもらいます。体調が今日は思わしくないとか、家庭がバタバタしてるなとかってあって、学校に行くんですけども、子どもが元気なのですっかり忘れて元気になるって事があります。それから、先ほどもありましたけど、勉強ね、いろんな先生と一緒に勉強していく機会を与えてもらえますので、学び続ける事ができるという所も良い所かなと思います。それから、これが一番私は良いと思うんですけども、私は子ども1人いますけれども、1人っ子なので1回しか子育てできないんですけども、子どもが歩ける様になったとか、今日なんかしゃべったとかっていうふうに、できたっていう時、周りの人も

のすごい大喜びすると思うんですけども、小学校の先生してますと、1年生から6年生までの6年間、親よりもたくさん時間一緒に居ますので、そういう「できた」とか、「分かった今日先生」、とかっていうような感動している瞬間に毎日立ち会う事ができます。それは凄くね、小学校の先生の、醍醐味じゃないかなと思います。それから卒業、担任をしますとね、卒業生の成長した姿というのに涙したり、卒業してから社会人になった子たちがね、「先生」とか言って町で声かけたりしてくれるとすごく嬉しいなど、良い仕事だなと思います。人を育てる仕事ですので、責任は重大なんですけども、多忙感に勝る、やりがいのある仕事ですので、ぜひ皆さん教職を目指して、鳥取県で一緒に働けたらと思います。

一方的におしゃべりしてすみませんでした。ご静聴ありがとうございました。

(石本) ありがとうございます。最後にね小学校の先生のやりがいとか、良い所についてお話いただいたんで、それが良かったかなと思うんですけども、大学の授業で話をすると、大変な事ばかりの話の比重が多くなってしまっていて、ついつい楽しい事っていうのを話す機会はあんまりなくなってしまうんですけど、実際ね今お話頂いた様に、いろんなやりがいとか楽しい事っていうのもあると思いますので、それも実際に話を聞けたんじゃないかなと思います。

中学校の免許を取る方が多いと思いますので、ちょっと小学校の事がピンとこなかったりとかね、いまいち関係ないんじゃないかなと思う人がもしかしたら居るかもしれませんが、でも、実際先生になってからそうなんですけども、もちろん同じ校種の先生から学ぶ事がたくさんあると思いますけど、違う校種ですよ。中学校の先生が小学校のとか、小学校の先生が幼稚園のとかという所に関心を持ってる先生の方が、やっぱりね強いですよ。いろんな事が上手にできますよね。そこが年々関心を持ってる先生、というのは実際いますけど、困るというか限界があると思いますので、だから違う校種の所から学べる所は学んでもらえたらと思いますね。さっきお話があった様に、やっぱり、教科の事もありましたけど、教科の事やるためには、クラスにね、「分かりません」と言える人間関係とか、話がありましたけど、失敗しても良い様な、クラス作りとかありましたけど、それがあからこそ学力が上がる、という所につながっていくものがあると思いますので、その二つの繋がりというのが分かったかなと、思います。

続きまして、谷口先生の方からお話いただきたいなと思います、お願いします。

## (2) パネリスト講演：

谷口朋宏 鳥取市立中ノ郷中学校

(谷口) 失礼します。中ノ郷中学校から参りました谷口です。申し訳ございません。手元に資料が一切ございませ

ん。作っておりません。その分こちらを見ていただけたらと思います。見てないとちょっと危ない事があるかもしれませんので、ご注意ください。途中ちょっと参加していただく事もあると思います。一番嫌なタイプの授業かもしれませんが、ご了承ください。

では話の方に入っていきます。たくさん事を伝えようと思ったんだけど、たくさんじゃ1時間30分じゃ伝わりきらんと思うので、要点絞って行きます。私の話ですが、採用試験、中学校合格者、鳥取県内18人しかいない時代に、合格いたしました。500人の中の18人、その中の1人。エリートだなど、そんなふうには一切思っておりません。私7年間落ち続けました。教員採用試験、理由は何となく分かっております。ポンコツです。なんで校長先生今日私に行けと言ったのかなと、なんで私に、学生にこんな話してこいと言ったのかな、と思うんですけど。いろいろポンコツだからこそ、ポンコツを認めた時に、これいけんな、こうしたら良いなと色々な事学べるなど思っていて、今までいろんな学びがあったので、その中の1つを分かりやすく伝えていけたらと思います。ご静聴よろしくお願ひします。

14年間私も教員を続けて来ました。今の子どもたちを見て思う事ですけど、人間関係作るのは下手な子増えたなと思います。話してと言っても喋れない子。自分勝手にしてしまう子。かなりの割合でもめて行く。そんな姿が多くなって参りました。この問題って、学級経営もそうですけど、教科指導でも立ちはだかる課題だと思って、きっとこの中で教員目指して、教壇に立った人がいるならば、必ず立ちはだかる課題の1つかなと思います。そんな中で、人間関係良くしようと思って、教師の言葉としてね。「もっと上手にコミュニケーション取ろうよ。」とか、「死ねとか乱暴な言葉使うのやめようよ。」、こんな言葉を使いながら教えて行きますよね。私もそうです。そうやって教えて行きますけど、今考えると、これって教えているつもりじゃないかと、自分では「コミュニケーションちゃんと取ってよ。」と、ちゃんと言ってるつもり。「死ねとか言うなって、危ないよ、そんな言葉。乱暴で良くないよ、その言葉。」言ってるつもりだけど、これって今思えば、言葉をしっかり教えてるつもりだけど、教えてるんだけど、と書いてたんだけど、完全に教えてるつもりだなど。最近ね思ったので、ちょっと具体的にいきましょうか。例えば「もっと上手にコミュニケーション取ろうよ。良いんじゃないこの言葉。」と思うかもしれませんが。けどこの言葉には、じゃあ具体的にどうすれば良いか、これが決まっていなくて、例えば班で活動させます。「コミュニケーションもうちょっと取ろうよ。」そんな事言ったって、そんな変わらない。もっと具体的にどうすれば良い事かなというのを、もっと当初から伝えていかなければいけないなど、今の子どもたちは、より人間関係下手くそだから、もっと伝えていかなければいけないなど、私は思います。なので私は、毎回毎回、会話のキャッチボール。これをテーマにお話を生徒にします。当たり前前の事ですね、会話のキャッチボールって良く言う言葉で

す。良く言うけど、意外とキャッチボールって分かって無いですよね。持ってきました。やってみましょうか、キャッチボールしてください、私と、生徒との関係あります。～キャッチボール中～

で、子どもの中でも、私と最初、会話のキャッチボール分かってると言っても、キャッチボールするんです。「ナイスキャッチ！みんな上手すぎ。」こうやってすると、ほんとに分かってるって意外と、今日皆大学生だから上手だったけど、意外とこれがゴロゴロするし、上手くいかない。キャッチボール難しいね。でもこれって会話も一緒じゃない？会話も難しいよね。会話のキャッチボールも実は一緒だよ。そんな話をしていきます。もっと具体的に言うと、例えば投げた時に、さっき皆上手だったけど、取ろうとしない子がいます。取ろうとしない子、「えっ？」って言う子、逃げる子がいるんですよ。もしくは、キャッチしても、特に女の子、男の子に渡して、「投げて、投げて。」と言ってるんですよ。私はあなたとキャッチボールしたいから、投げたのに、あなたは横の人に渡すのですか？私は投げたのに逃げるのですか？これって、キャッチボール、会話のキャッチボール、キャッチボールでもそうやってする人いるけど、会話でもこうやってする人いない？そんな話をしていきます。投げたら逃げる。いますよね、そういう子がいるんですけど、これってでも、「それを何で逃げるだ。お前、折角投げたのに、逃げるないや。おいおい。」って言っちゃうのが、ちゃんとキャッチボールの難しさを分かっているか、それを知って会話するのか。キャッチボール、取るの苦手な子がいます。会話も一緒。ちゃんと言葉を受け止めるのが苦手な子もいます。そんな子はどうしても取ろうとしない。恥ずかしがる。ちょっと避ける。そんな子みて「おい取れよ、ちゃんと取れよ」って言ったら、ますますその子は逃げて行くよね。じゃあどんなボール投げれば良いの。とりやすいボール投げれば良いよね。もっとふんわりしたボール。どんなボールが取りやすい？例えばふいにさ、ふっと投げたらとれるの？ってなっちゃう。こんな事会話でもしてない？って言うんですよ。ちゃんとその人に伝わりやすいように。その人の目を見ながらとか、方向を見ながらちゃんと、そして取りやすいボール投げて？そういう会話してる？そしてもしその人が、取らなかつたり、投げ返してこなかったとしても、それを怒って無い？みんな、仕方ないと思わないとダメなんじゃない。その人は別に私の事を嫌っているんじゃないかもしれない。ただだんに、キャッチボールが苦手だから、自信が無いだけ。だから、隣の人に渡したり、逃げたりしてるだけ。本当は会話したいのに、そうしてるだけじゃないか。だとしたら、「なんで取らんだいや。」じゃなくて、「ごめんごめん、今のボールじゃちょっと無理だったかな。」とか、もっと「大丈夫だよ、私はちゃんと受け取る、どんなのでも受け取れるよ。」という姿勢見せたら、もっとキャッチボールできるんじゃない。実は会話も一緒じゃない？そんな話をしていきます。投げる時のポイント、受け取る時のポイント、受け取り方のコツ、投げ方の

コツ、例えば受け取る子も苦手な子は逃げて良いの？投げた時逃げられたら、めちゃさびしかった。あなたにキャッチボールしたいと思って、やさしく投げたのに逃げたよね、俺すげーさびしい。隣の人に渡したよね、俺めちゃあなたと喋りたかったのにさびしかった。会話も一緒じゃない？そんな事を、だから会話のキャッチボールというのが、正にいろんな事を含めてそうやって言うんだね。難しいよねキャッチボールって。という事で、こんな話をしながら、年度当初に投げかける言葉の使い方、受け取り方、そしてたとえ上手いかなくても腹を立てない、そんな事を押さえて行きながら具体的に話をしていきます。

もう一個ですね、さっきもありました。「死ねとか乱暴な言葉を使うのは止めようね。」これ具体的に良いですよ。ちゃんと伝わってるじゃないと思うかもしれませんが、意外とこれが、真面目にね、いますぐ死にそうなりに「死ねや」なんていう子はもちろんいません。中学生、元氣びんぴん、ふざけ合ってる。ぶつけ合ってる、ボールを。である時、人が強くぶつけて来た。「死ねや、お前」と楽しそうに言う。その時です。その生徒に聞こえて来た教員としたら、「乱暴な言葉使うな。」と言います。私も言います。大学出て、教員になってからもそういうシーンありました。言います、もちろん。でもそうやって言うだけだったら、きっとこの子は、わたしが見てなかった所で、また言いますよね。若しくは数日後に、また「死ねや。」と言いますよね。だから本質理解してない。その子にちゃんともっと分かる事を伝えないといけない。だから私は具体的にになりますが、4月当初こんな話もします。「死ねや」って言うシーンあります。私は、教員になった頃、口では注意しますよ。「おいおいおい「死ね」とか言うなよ。」でも内心は「まあまあまあBも笑ってるし、まあそんなたいした事じゃないだろ。」こうやって思っただけで教員やってきました。これしくじりですよ。皆さんの中にも、まあ良いんじゃない。と思う人いないですか？結構大きな声で、「死ねや」って。注意しますちゃんと。「だめだよ「死ね」って言うな、以上。」でも内心は（言っても）「良いかな。」と思う人いないですかね。でも私はずっとこれでやってきたけど、やっと私自身自身で経験して、気付いたんです。という話をします。

たたちちゃんですこれ。私のお父さん。似てますか？たたちちゃん、このたたちちゃんは、すごく元氣。風邪ひとつひかない。熱は38度出ても、お仕事には余裕で行く。病院なんて行った事ない、ずっと。というお父さんでした、元氣なお父さん。すごいですよ、ムカデが出たという時も「危ない、お前たち近づくな。」と言ってくれるやさしいお父ちゃん。元氣なお父ちゃん。「よし近づくな、見とけよ、俺の生き様だ。」と言ってムカデを素手でバツと持って、「ブチッ」「イタタタタッ」見る腫れている。「こんなにムカデは危ない」って実演してくれる様な、めちゃパワフルで、元氣なお父ちゃん。すごいお父ちゃんでした。自慢のお父ちゃんがありました。このお父ちゃん。私が働いて、倉吉でね、最初先生していました。その時に、電話かかって

来たんです。「お父ちゃん珍しく風邪引いて、病院行っただわ。3日間珍しく体調良くなって、病院行っただわ。」「心配だな、あのお父ちゃんが。」と思って。土日にね帰るチャンスがあつて日曜日帰りました。そしたらうちのおとんが言いました。「おお、朋宏。」、私です。「おお朋宏、元氣か？お父ちゃん病院行ってなガンって言われたわ。」って明るく言うんですね。「ガンって言われた。え？」ってこっちは驚く。急に来たからね。そしたら次の言葉が「末期のガンだわ」。末期のすい臓ガン。その時は、末期のガンって聞いたら余命1年あるかないかのね、そんなイメージ。イメージ通り実際そうなる。もう真っ白になってガーンって殴られたかの様な衝撃ね。こんな元氣だった大好きなお父ちゃんが、急に末期ガン。後1年でおらん様になるかもしれない。うそでしょ、あんな元氣だったのに。頭真っ白、何も言い返せない。でもお父ちゃんは元氣に振る舞う。「まあまあ大丈夫だけえ学校行って来いよ。先生やって来いちゃんと。」って言って、また週末が終わったら帰って行く。帰るとまた心配だから土日の度に帰る。それを繰り返していたけども、徐々に徐々におとんは食べられなくなる、ガリガリになる。そして何か知らんけど、腹が栄養が偏りがあって腹だけがぼって出てくる。上手に歩けなくなってくる。その内脳まで侵されて、なぜか夜に深夜2時くらいに、家を飛び出そうとする。「お前たちは俺の敵か！」あんなに優しくお父ちゃんが、そんなふうになんか家族を振り払って行こうとする。それを家族が必死に止めて「お父ちゃん、なんとかして、我慢して。」と言って止める。でも少しでも生きてほしい、お父ちゃん抗がん剤飲みながら治療する。お父ちゃん抗がん剤の辛さを一切顔に出さない。そんなお父ちゃんでした。でもこっちは知っている。すごい吐いている。髪元々少ないけど抜けて行く。そんな姿を見て行く。そんな中で、中学校です。またいつものように繰り返されました。「死ねや。」とか男子生徒が言って、「あはは」って。その瞬間、自分はいつの間にかそいつの胸ぐらを掴んで、「おい！お前何言った今。」その瞬間ね、初めて自分は、あれ今まで俺は、この言葉に対して、ちゃんと向き合ってた。そして言葉の持つ力というのを知らなかったなと思って、言葉ってこうじゃない、その時初めて知ったんです。言葉ってBに言っているんだけど、Bが聞こえて、Bはなんとも思って無い、OK。全然違う。言葉ってそんなもんじゃないよね。言葉って言った瞬間。言った所から全部に広がるよね。そうなら、影響受けるのは、全部よね、全部。それ聞こえた人全部に影響受けるよね。例えば私みたいに、身近に祖母がなくなりましたっていう、中学生おたんちゃんかな。俺気づかんかったけど、あの子が「死ねや。」って言った瞬間に。確かにそうだ、一か月前に、大好きなおばあちゃん亡くした子おったな。そう言えばうちのクラスには、人が死んでなくても、学校来るのちょっと嫌だ、怖いっていう子がいる。その子が、「死ねや。」っていう言葉聞いたら、どう思う。ますます学校嫌だなと思うんじゃないかな。いろんな事、頭にやっとならば巡って、言葉って聞こえた人全員に影

響するね。すごい武器だよ。凄い事だよ。だからさ B に言って、B がなんともない。大丈夫。そんな問題じゃないよね。というような話を、長くなりました。逆にね、幸せな言葉使ったら、B さんに言っただけなのに、C さんが喜ぶかもしれん。D さんは暖かい心になるかもしれんね。そんな言葉を丁寧に伝えてやって、やっとこれで伝わった、教えたと言えるかなと私は思っています。すごい長くなりましたが、教えるってそういう事かなと思います。ちなみにね、そういう授業するようになりました。私は自分の父が亡くなってから、この授業を最初に、最初にするようにしました、そしたら本当に言葉について、生徒は考えてくれるようになりました。そしたらある時も、3年生の卒業が近づく中、1人の女の子が言ってくれたんです。

「先生、もうすぐ卒業ですけど、先生に言ってなかった事があります。私実は病気で薬の影響で、髪の毛が抜けるんです。実はこれカツラなんです。」って言って誰も知らない、教員も生徒もちろん知らない。それを言ってくれたんです。なんで言ってくれたかなと思ったら、

「実は私、1、2年生の頃、自分は全然担任してもらってなかったんだけど、1年生の頃、やっぱり「ハゲハゲ」ってみんな使いますよね。ボウズの子みたらハゲって言うし、腹立ったら、「おいハゲ！」そう言われる度に実は私、後ろで言われたら後ろ振り返って、横で言われたら横振り返って、私のこと言われてるんじゃない？ってビクビクしてビクビクして、怖かったんです。でも先生3年生で最初にあの授業してくれて、本当にハゲって言葉で言う子が居なくなって、自分がやっと出せたような気がします。ありがとうございました。」

その言葉聞いた時に、言葉って本当四方八方行くし、誰がどこで影響受けるかわからんな、だから伝えるって、教えるって、本当にこだわって、きちんと伝えることが大事だな。そうやって私は思いました。皆さんも教師なんて教えることだらけです。なんで茶髪いけなくて、なんで菓子食ったらいけないの。いろんな事が出てきます。その時に教えると言うのは、ルールだから、そんなんじゃないよね。きちっと教える。なぜいけない。そして、ここをちゃんと伝わるように教える。意外とこれは、今でも難しい事だなと思って、こだわっている事です。

もう時間になりますか？教科指導ぜんぜんしてませんか？、終わりますか？」

(石本) まだ大丈夫です。

(谷口) 目が見えなくて、すみません。教科指導、ついでにじゃないけど、教科指導について、話をさせてもらいますので。私の財布の中、15年間入れています。何か分かりますか？好きなアイドルの写真とか、そんなものではございません。お金はもちろん入ってますけど、15年間変わらず入れている物。皆さんされましたか？この中で？教育実習の写真です。卵生胎生の違いを理科で教えてる、小学校で教えてる写真です。私この授業で、いろんな間違い探

ししたり、ちょっと楽しくなるようにしました。最後に「なんでじゃあ、陸上に卵を産む生物の卵の殻、殻が絶対ついてるの？」って話しました。児童が言うんです。「丈夫にするためだよ」って言った瞬間に私は、「ほんとに丈夫になるの？殻があるだけで？」って言って、殻のある卵を持って、生徒の所に投げつけてやりました。そういう授業です。もちろんその卵は、スーパーボールで、前100均に売ってあったんですね、スーパーボール。それをビョーンビョーンとなった瞬間、生徒は立ち上がり、喜ぶ喜ぶ。こういう授業をして、ちょうどね教育実習の先生が撮ってくれたんです。私のその様子を。立ち上がって前のめりに、見てくれる。その後の授業も真剣に話聞いてくれるし、やっぱ、楽しい授業って大事だなと思って、この心を忘れない。そう思って、私は15年間これを財布に、今でも入れてますけど、この気持ちを忘れずにいようと思っただけで授業をしている所です。楽しい授業を追求したい。いろいろしてきましたね。カエルの解剖。楽しくない人もいたかもしれない。ロケット飛ばそう、ポップコーン作ろう。色々食うのはみんな大好きです。いろんな実験をする時とかね、こうやってする事で楽しい授業をどんどん作っていった。つもりでした。ここでしくじりですよ私。楽しい授業にしてたら、一瞬楽しいですけど、時間が経つと、生徒気付くんです。楽しいけどテストに出ない。実験のインパクトが強すぎて、この授業何を教えて欲しかったのか。今日のメイン何？ポップコーン食べる事？あれ？何だったんだらう。次第にね、心が離れて行って、生徒は楽しい授業の時は、実験の時は来てくれるけど、実験が終わって生徒が質問に行くのは、別の理科の先生にね質問に行くという。そんな感じになってちょっと寂しいなってなりましたね。そこで気付いたんです。これに気付いたって何だろうね。これ分かります？何円くらいしますこれ。もちろん私が描いた絵だから0円でございますよね。この絵はですね、もちろんピカソを学んで描いた絵です。どうでしょう。ピカソを目指してこの絵をじゃあ100枚描いて、200枚描いて、1000枚描いて、どうでしょうか。絶対上手くならないですね。ピカソなら1000億円を生きている間に稼いだと言われてますが、それで憧れてじゃあこれを、皆さん今からこういう練習して、ほんとに上手くなるか、もうご存じの通りそんなはずはないですよ。ただ授業も一緒にかなと思います。憧れの授業があります。私の中で憧れの先生、楽しい授業されてるな。よし、あれ目指そうって言って、まさにそれをずっとしてました、私は。毎日して、そこを、あの授業あの授業。もう形だけ、そっくりそのまましてやろう。これ繰り返しても、気付いたんです。全然上手くならない。全然思うようにならない。なぜなら、当たり前ですよ。あのピカソだったら8歳の時にはこんな絵を描いてますもんね。もうご存じだと思うけど、8歳でこんだけの絵を描ける。なぜならデッサンを何千枚と描いているから。基礎ですよ。結局はしっかり基礎を積み上げないと、本物にはなれないというようなね、勿論のこと。こんな事当たり前かもしれないけど、そこでやっと私は

気付いたんです。気付いて良かったです。時間ないので省略しますが、授業の作り方にも、いろいろポイントあります。それだけじゃなくて、学級作り。授業をもったクラスの雰囲気作りも、自分自身がやらんといけません。その中でルール作りもしていかないとはいけません。いろんな事、こういうのを全部基礎って言いますが、基礎を積み上げる上に、やっと真の楽しい授業が。それに気付いたんです。で、今の子どもたちというか、皆さんが受けた教育と、これからの教育の違いが、明らかに、これは言われていますね、皆さんの頃からたぶん。AIが全部やってくれる時代です。困った事があれば、皆さん今スマホをもっているでしょうかね。今知識を例えば、いきましようか、光合成の材料。

(AI) ○○.go.jp によれば、緑色の植物は、日光を受けると、葉緑体……。

(谷口) 「3秒4秒で出ますね、答え。子どもだってできます。だから知る事って、どんだけ大事か、もちろん知識を入れる事は次のアイデアにつながるから大事だけど、知識をゲットする。それで十分かと言うと、今そんなら、すぐ知ってくれる時代。AIというものを使ったら、すぐなんでも変わってくれる時代。そんな時代やってきてます。もうすでにやってきてますが、さらにさらに進化して行きます。そんな中で、皆さんは教員になったら、どんな力を生徒に付けたいか、皆さん今スマホをもっているよって言われたらもう皆さんの仕事はなくなります。教員の仕事なくなります。でも学校でしか学べない事って、あると思うんですよ。知識だけじゃない、それを活用する力、思考する力、表現する力、判断する力、この辺を。知識の時代は変わりました、もうすでに皆さんが受けた教育も、知識だけって時代は終わってきたかと思いますが、これからの時代は、もちろん知識も入れないと次にいけないけど、より活用する力を、求められています。つまり、活用する力って一人で黙々勉強する子を育てても、なかなか磨かれて行きません。自分が思っているのは関わる中で、表現する、他の子に伝えるとか、そういう活動で、例えば他の子からこう聞いた、それ合ってるの？判断する力。人に関わる中でこそ、いっそ磨かれるものかと思ってるので、なんとか授業には自分は今、入れようとしています。何をかって言うと、とにかく学び合う、関わり合う事をね、授業にどんどん入れていかないとはいけません。例えば最近やりました発電の種類とその特徴、というのを覚えなといけません。今までは、ずっと発電機書いてその横に特徴を書かせる。そんな授業をしてみても、そんな時代は終わったなと思って、カードに発電の名前が書いてあります。もう一枚には発電の特徴が書いてあります。全部裏返してます。神経衰弱というやつです、して行きます。そうする中で、「これ知らん、じゃあ調べようぜ」、教科書自分で調べます。「これこうじゃない?」、お互いに話し合います。「これとこれ似てるけど、どっちが正解?」 比較しながら判断していきます。普通に覚え

るんじゃないかと、ゲーム化したり、とにかくグループ作る事で、そういう力を付けたいなと思っていますし、さらには最後には、カードの中に鳥取にあった発電議論してみいやって言ったら、鳥取にあった発電、なかなか難しい事言いますが、話し合うようになります。そういう、ただ覚えて、何発電はなにになに、この発電はこういう特徴。そんな事を言えるのは素晴らしい。なんていう時代は終わりました。終わりましたって言うていいかわかりませんが、皆さんはもし教壇に立つのなら、そのさらに先の、思考する部分や、説得する様な力をつけていただきたいと思うので、もしも、なれる事があつたら、その辺意識していただけたらと思います。

もう1個です。教える教材から、考える教材に変えていかなければ、そんなふうにして、最近天体の授業に入って作っていきます。100均にしか行かないので、100均で道具を作って毎回子どもに渡します。これ、ぐるぐる回って、金星の見え方でしょうか。動かす事で、班に1個でも配ってれば、自分たちで動かして、見る事が出来ますね。これがあれば十分かなと思っていました。けどこれってでも、結局見るだけです。思考って、見て結果を考える。金星がこの位置だったら、こう形になるわ。この位置だったら、こういう形になるわ。結局は、そこに考えると言う余地はなく、あんまりなく、基本的には見てその結果を書くと言う感じの教材です。今の時代求められるのはこれじゃないなと思って、3日前、4日前くらいにね、この授業に入ってから考えました。どんな教材が良いんだろう。100均ですね、フラフープ100均に売ってます。それにこういう教材くっつけました。似てますよね、何が違うか分かりますか。違うのはたぶん、見ても分からないと思いますけど、何もついてないのを渡します、生徒にね。そこに重りを渡します。マジックテープが付いてます。こっから考えさせます。「黒板が太陽ね、ここに置いてみようか。たとえば月はここ、地球ここね。ここ回ります。どうやって動きますか。どんなふうにか光りますか?」そこから考えさせながら、そういう部分を入れる教材をね、作っていかないと時代になったかなと、思います。教える教材は今までなんぼでも、あったと思いますが、今求められているのは、ちゃんと生徒が思考して、これを各班に配って思考しながら、1つの例ですけど、いろんな場面で、いろんな教科で、きっとそういうチェンジをしていかなければいけないなと思っています。教える教材、別にこれが悪いとは言いません。これも使っているだけで、もっともっと今求められてる、考える教材、生徒自身が考えて、判断できる教材を、もっともっと入れながら、していくのが今後かなと思っています。次の世代を担う皆さんには、ぜひそういう所を意識して、作っていただけたらと思います。すみません、長くなりました、私が気に言っている言葉です。3流教師は誰かのせいって恨ませる、3流です。2流の教師、子どもに「先生のおかげ」って言わせる。十分じゃないと思いますね。違うんです、これは昔の、1流です。けどこんなの今2流で、先生のおかげで分

かようになりました。まだまだ2流です。今1流の教師というのは、子どもに「私の力でできた、これが。」と言わせる。そうだなと思います。先生が上手に教えるって時代じゃないな。自分で分かったな。でも超1流があります。超1流は、グループ作ってその中で話し合ったりする中で、「皆のおかげで分かるようになった。」と言わせる。これが次世代のたぶん目指すとこかなと私は思って、この言葉を最近目標にして頑張っている所でございます。こんな偉そうに言ってるけど、全くたぶん今、2流か3流の所をうろうろしている私だと思いますので、皆さん、すぐ1流、超1流を目指して頑張ってくださいと思います。頑張ってください。今やってる事、全く無駄になりません。私も無駄だと思ってきた、大学生活も、ふざけたような劇の練習とか、2時3時、夜中の2時3時まで元気でやってきました。バイクをずっと乗り回してました。ギター、音楽大嫌いだっなのに、ギター始めました。それが全部全部もう、教育に生きてますね。中学校授業にも生きてるし、話に生きてるし、1つも無駄になる事なかったなど、思います。とにかく適当にやるんじゃなくて、何事にも全力で注いだらきつと何か、絶対役に立つと思いますので、皆さんも先生です。生き方すべてが先生ですので、その辺考えていただいて、良い先生になっていただけたらと思います。

すみません、長々と、ご静聴ありがとうございました。失礼いたします。

(石本) 先生ありがとうございました。中学校の時に先生に教えてもらった良かったな、と思う様な話がたくさん聴けたと思います。

この中で印象的なのは、途中の教科指導の前の話に出していただいた所ですけども。やっぱり生徒指導とかの授業で私が話をしてるのは、想像力を持って下さいという事をいつも話してるんですよ。想像力を持つのも限界があって、知識と想像力と両方必要で、という事を言ってるんですけども。今日お話いただいたようにね、例えば髪の毛が抜けるような病気を持っていたりとか、例えば親類で最近亡くなった人がいるとか、そういう事に対してね、想像力を持つというのは生徒にも持ってもらうないといけないし、教員にしても想像力を持たないといけないし、その上で言葉を選んだり、教材研究したり、こちらからの言葉かけで考えて行かないといけないので、それって凄く大事な事ですよ。でも限界があるので、100%想像するのは難しい。でも今日そうやって話を聞いた事によって、少なくともその辺の想像力カバーできるようになりましたよね。それもすごく良かった点ではないかなと思いますし、さっき山根先生からもね、最初に話ありましたし、やっぱり大学生の内というのはね、いろんな体験をするというのは本当に大事。何のために大事かというのをね、分からない人もいると思うんですけど。それも1つは要するに、想像力を高めるためだと思います。そうやっていろんな経験したらいろんな人と出会えるし、いろんな経験できるんで、ああ

そういう考えの人もいるんだな、とか、そういう風に思う人もいるんだな、とか、そこに傷付く人もいるか、という様な事で、いろんな事が想像力として、つくと思うんですよ。それがあつたら、やっぱりこちらからの言葉の発信一つも変わるし、教科の授業する時にも、言葉の使い方とか、教え方とか変わるので、そのために体験が必要。だから授業受けるのは当然必要ですけど、それと同じ位か、それ以上にと言うと、以上にとは大学教員の立場としては言えないですけど、いろいろな体験をするという事を、重視してもらいたいなど。1年生だとまだまだ時間がたっぷりあるので、是非ともその辺は意識して、やっていただけたら良いんじゃないかなというふうに思います。

じゃあ、ぜひ質問を出してもらいたい所なんですけども、質問が、聞いてみたい所とか、何かしらある方。もつと話が聞きたいと言う事も含めて、もしあれば、どうでしょうか。なかなかこういう時出てこない場合があるんですけども。気楽に話を質問をしていただけたらと思いますけども。どうしても出てこなかったらこちらから当てるかもしれませんけども。

(学生1) 貴重なお話を聞かせていただいてありがとうございました。僕は中学校の理科を主に勉強にしているんですけど、具体的な話でもよろしいでしょうか。すでに実習を2回終えたんですけども、指導案作成の段階から、評価に関して評価方法というものを設定するのを非常に苦労しまして、先ほど先生がおっしゃった様な、楽しい授業と言うのは自分もこう実習でやりたいなと思ってたんですけども、それをどういう風に評価をすれば良いのかと言うのを、もうすこし参考にしたいので、聞かせていただけたらありがたいです。

(谷口) 難しいですね。すみません、楽しいばかり追求してたらきつとね、そこを評価する訳じゃないので難しいと思うんです。評価ってたしかに難しいです。結局プリントに書かせて、見てみないとできたかどうか分からないとかありますので。実際教員も書きますけど、評価の所に。正直きちんと見てられるか難しい所です。どう答えたら良いんだろう。

(学生1) 評価方法とかなんですけど、どの様に手段の所で、ワークシートしかこう思い浮かばなかったんで、他の手段と言うか、どういう所に着目すると、いいのかなと。

(谷口) ありがとうございます。項目ありますよね、思考力とかの評価だったら、ワークシートで良いと思います。実技とかだったら、まわりながらチェックする。その実技の様子を、実技評価シートでチェックするという書き方でもあると思いますし、興味の所だったら、興味は評価できにくいですね。難しいですね。ごめんなさい良い答が浮かびません。エセ教員みたいなもんで。ごめんなさい、堪忍して下さい。すみませんフォローがあれば。

(石本) もし何か付け加えがあれば、先生の方から。

(学生2) これとはまた別の話なんですけども、教科指導とか学級経営とか生徒指導が密接に関係しているというのは、すごく良く教育実習を通して思いました。教科指導と言いますか、授業中にも生徒指導をしなければいけない場面というのは、多々出てくると思うんですけど、中学校になると、授業の中で生徒指導をする場面と言うのはおのずと増えてくると思うんです。そう言った所で、授業中で気を付けている所とか、守らなければいけない部分。みたいな、難しいですけど。聞かせて頂けたら。授業中に意識している生徒指導としてのポイントというのがあれば聞かせていただけないですか。

(山根) 小学校なので、授業中もなんですけど、授業と授業の間の休憩も一緒に過ごしているの。さっきどうだったとか、そういう話をしたりはするんですけど、先ほども話をしたと思うんですけど、友だちの意見に対する反応だったりとか、なんかシーンとしてたら寂しいなとかと言う様な事は、皆が聞いてるよとか、一緒に考えてるよ、というような反応はしていこうと言う様なルールだったりとか。ネガティブな発言に対しては、今のこういう言い方だったら伝わったけど、ちょっと良くないなとかというのは、その都度気を付けてと言うかしたりはしますけど。どの授業でも生徒指導を考えていると言うよりは、今日の学習のねらいに沿って、こうやってるんだけど、支援が必要な子に、これを渡しておいたらできるかなとか考えられる。困り感に対しての手立ては考えておいて、それぞれが、あの子だけ良い物もらってるなみたいな、ひいきされてるというような考えにならないようにはしていく。授業じゃない所で毎回しますけど。答えになって無くてすみません。

(石本) 他に質問ある方、いらっしやいますでしょうか。

(学生3) すみません。大変素晴らしい講演というか、お二人の言葉が身にしみたと感じるのですが。二人に質問なんですけど、今自分の課題というか、他人の気持ちに寄り添うというのがすごい苦手だなと思って。今まで自分への伝え方というのが、とりあえず自分が思った事を言う、要は、他人に応じて、出力を変えてなかったというか、他人にあった言葉であると思うんですけど、その時にやっぱり他人に寄り添う事が大事だと思うんですけど、なんかそれで意識してる事とか、伝え方だったりとか、ポイントというかあったりしますか。

(谷口) すみません、私の方から先に。シンプルに子どもにはシンプルに言わないと伝わらないと思ってます。自分の中では、自分は生徒指導の授業の始まりでも、さっきの質問にもあったんですけど、結局芯は一本、仲間を傷つける

な的一本。その視点で、全部を話すようにしたら、基本ぶれないし、生徒もスッとわかってくれる。例えば給食当番サボるの、これって仲間傷つける事じゃない？例えば食べるの遅い子。どんな気持ちで急いで食べるのかな？全部つながるし、全て軸を一本、自分の中で軸を一本にして、なんでも良いと思うんです。自分の中では仲間を傷つけない。小学校から幼稚園から、仲間を傷つけないようにしましょう。言われる事だけど、それって、例えば話をこっち見て聞いている。それって仲間傷つけてない。全部が全部その視点で自分の中では話してできるなって思ってた。それって生徒にわかりやすく、傷つけちゃいけない、傷つけない。だって、一緒に勉強する仲間だもん。そういう視点で行くと、わりかし入りやすいし、自分もプレずにいる生徒指導できるかなと思ってる所です。それがポイントかなと思っております。

(山根) 寄りそうって事はとっても大事なんですけど、個性というか、自分はこうだ、私はこう思っているよと言う事を、ストレートには子どもにもですし、同僚にもです。私はこう思ってるんですけどどうですかね、という自分の意見を伝えながら。どうですかとか、今どう思ったとか、ごめんよ先生、なんか分からなかったんだけど、聞いてどう思った？とかって言う風に、聞いた子どもが全然、私の予想してない事、返してくれたりとかという事もあるので、常にどうしたら寄り添えるか、と言う訳じゃないんですけど、上手く言う事ばかりではなくて、学校の先生嫌いって思われてる子も何人もあると思いますけど、休憩時間だったりとか、関係性を作っておくという事は大事ではあるんですけど。常に相手に合わせてというよりは、どの子にも同じように接するけど、「私こういう先生だからね。」と言って、「ごめんよ、ついて来てよ。」っていう感じですね。でも小学校はね、不思議なんですけど、小学生って学校の先生が絶対って思ってるので、お母さんのやり方は違う、先生そんな言い方せんかったとかって言う風に、お家でも言ってるみたいですけど、先生はこうだよって言ったら、それを鵜呑みにする様な所があるので、無茶な事は言わないというか、大事な事はまず大事、と言葉を考えて伝えないといけない、という風には思いますけど、無理して合わせてという事はしてないです。

(石本) 合わせてっていう所で言うと、さっきも言いましたけど、想像力と言うのでね。やっぱり相手の反応を想像する。というのも大事な部分はあるんですけど、さっきもこれは言ったとおりですけど、想像力も限界があるので、全員の受け止め方を想像する事は絶対にできないので、もう一個大事なのはフィードバックですよ。こっちは授業して、これは大学生も一緒ですけど、これ全然伝わってない、というのが、表情から分かったりとか、提出してもらったものから分かったりするので、それで次から変えたりとか、この言葉がけしたら、表情が曇ったとかあった場合は、これはちょっとこの子に対してはキツイ言い方だっ

たかな、とかいうのはフィードバックされるので、事前で想像力で調整するのは大事だけでも、一方で放った後で絶対に傷つけない、というのは不可能なので、そこでフィードバックして調整する、というその繰り返しもやっぱり大事ですよ。他にまだちょっと時間ありますけど。

(学生4) 興味深いお話ありがとうございました。実際に自分もやってみたいなど、思う様な事がとても多かったです。質問なんですけど、さっき谷口先生の話の中で、関わり合い、ゲーム化とか議論とか、というのをされていると話があったんですが、やっぱり勉強が、塾とかでやって、割と良くできる子であったり。後は班とか、周りと話すのが得意で、そういうグループ枠で話す子もいれば、話せない、あまり話さない子とかっていうのもいるなどというのは、私も実習に行っていて思った事なんですけど、そういう子に対して、話せない、話さなかったり、自分の意見を言えなかったりとかっていう子に対して、その場での支援はどういう事をされているのかな、というのが1つ。後はその場だけじゃなく、教科指導であったりとか、学校生活の中全体的な場面でどういった様な、支援というか関わり、何かをしてもらっしやるのかと言うのをお聞きしたいと思います。

(谷口) 結構喋らない子はいます。恥ずかしがったりとか、場面緘黙と言ってね、ほんとに喋れない子もいます。けど、当てます、喋らせませす。普通と一緒に扱います。じゃないと周りの子が、周りの子がと言うか、その子にもチャンスが与えられない、自分はですよ、自分は。この子は無理だとか、飛ばすとか絶対ないようにね。この子はいつか喋れるかもしれないと先生は思ってね、こうやってみなで支えて行こうやって。しゃべってるのに、急に当てないとか、「いい、いい、じゃあいいいいよ。」って言ったら、私は自分の方針を変えてしまうし、あったかい授業作りにもそれは別方向を向いてると思うので、必ず当てます。でもどうしてもダメだって、そういう風な話をしておくで、周りは暖かい表情で待ちます。そしたらボソッとでも言います。その時に「周りの友達の聞こえた？サポートしてあげられる人いない？」って言ったら、そこから自信もてるでしょうし、やっぱり仲間って大事だなという事も出るでしょうし、必ずその子にチャンスあげます。そしてほったらかしにせず、周りの子を育てて、拾わせるようにします。そういう風にします。もしくは、その子が勉強苦手な子、やんちゃな方のタイプだったら、その子が答えられるような問題を出します。その子が活躍できるような問題出します。具体的に思い浮かんでないと思いますが、例えば答えが、問題出して、正解が(分からない)という正解を何ニュートン、何ニュートンと答えるのに、本当はその問題の正解は(分からない)だよ。順番に当てて行って、最後に勉強が苦手な子に当てて、「分かりません」、「正解です」って言った瞬間から苦手な子は、自分の授業はどんどん発表するようになりました。その仕組みで

すよね、答えはないと思います。自分なりの仕組みを是非もって頂きたいと思いますので。答えはないのでお探し頂けたらと私の中では思っております。

(山根) 小学校でも、話せない子というのはあります。私は特別支援の担当をしたりしてるので、場面緘黙のお子さんとかと教育相談にいたりしてるので、そういう子に話させるというところちょっと厳しい、という所もありますので、グループワークとかになった時に、グループを回って行くんですけど、その前には自分の考えをちょっとだけでもワークシートとかノートとかにちょっと書かせて、話し合ってもらったとか言った時に、まだ話してないんだ、とか言ってどんな事書いてるか先生発表します。とか言って、その子になりきって言うか、そうやって回っている間に、うちの学校ですと、ずっと1クラスで上がってるので、あの子は喋るのはこういう時苦手なんだよな、とかって言うのを、〇〇ちゃんなんて書いた？とか、誰の意見と一緒にだったとかって言う風に、子どもの方から聞いたりして、学習には参加しているという形で、それも表現にしたり、選択肢を与えて、1番はこれ、2番はこれで、3番はどちらでもない。どの指持ってとかっていう風にして、何かしらの反応を聞いたりっていう風にして、その子に合わせて、学習に入れるような、スタイルを、回って行っている間に、先生がそうやってやってたから、私やもそうやって聞いてみようか、とかっていう風に、休憩時間は喋れるとかっていうような子もあるので、授業中だけとか、先生に当てられた時だけでも口を紡いでしまうとかっていう子もあつたりするので、こういう風な支援をしています。答えてなくてごめんください。

(学生4) ありがとうございました。

(石本) そういう場面の支援っていうのは、今お話いただいた所ありますが、二つの方向性があるって、最後に先生にお話いただいたみたいに、例えば話出来ない子に対して、書かせる、といったような、選択肢を設けるっていう事ですよ。これ絶対大事で、話せる子には話してもらって、書ける子には書いてもらってとか、それ以外の方法が良かったら、それ以外の方法って言う風に、選択肢を用意するのは凄く大事なんですけど、これはどちらかと言うと欧米的なやり方。でも日本でこれだけやると、すごく冷たくなってしまう時があるんですよ。その時に、谷口先生が話してくれたみたいに、周りの子をサポートできるって言う風に横のつながりを作るって言うことですよ。選択肢をして完全に自分のやりやすい道だけでやってね、だけじゃなくて、繋がってサポートし合おうねって言う様な横のつながりを作るって言うもう1つの支援っていうのも、どっちもあるとね、支援というのは良いのかなという気がしますよね。

時間になっちゃいましたけど、最後に二人の先生方にもう一度拍手をしておしまいたいと思います。